

天竜川の災害年表

笹本正治編

はじめに

原始時代以来、信濃国・長野県への文化の入口には大きく二つのルートがありました。その一つはいうまでもなく、太平洋側から天竜川にそって南信・中信へと北上するものであり、他は日本海側から信濃川・千曲川にそって北信・東信へと進むものでした。この二つの文化の移入路はその後の信濃の歴史のなかに大きな影響を与えてきました。天竜川、およびその周辺は信濃へ文化の入る道筋として、重要な役割を果たし続けてきたのです。

信濃という視点から、南信濃という範囲に目をむけると、天竜川は諏訪地方の水を集めて信濃から外に出し、伊那谷を広げ水を運びながら、この地方の動脈のような役割を担ってきました。天竜川が作り出した河岸段丘上に水田や畑が作られ、天竜川がもたらす豊富な水が農業の源になりました。豊かな伊那谷は天竜川なくしては生れなかったのです。まさに天竜川は伊那谷の生命の母としての役割も持っていたのです。

しかしながら、天竜川は全く逆な側面をも持っていました。荒れ狂う天竜川は、住民にとって恐怖の的でした。天竜川の異名として「暴れ天竜」はよく知られています。伊那谷の歴史はそのまま天竜川の水害との戦いでもあったのです。

天竜川が暴れているのは、全体の時間のなかではわずかでしかありません。私達も多くの場合、近代工法の堤に囲まれた静かな天竜川しか見ていません。しかし、自然はいつも静かではないのです。天竜川もいったん荒れ始めると、大変な災害をもたらします。私達は、常に災害に対する準備を怠ってはならないのです。特に近年の治水事業の進展により、巨大な堤防で囲まれた天竜川を見ると、ついつい安全だと考えてしまいがちなのですが、自然の力はそんなに簡単に制御できるものではありません。それこそ災害は忘れた頃にやって来るのです。

災害に備えるためには、過去の災害がどのようなものであったかを知っておく必要があります。そこで、本書ではこれ

までにおきた天竜川およびその支流、そして天竜川の源である諏訪湖における氾濫や洪水を年表にいたしました。収録記
載は、天竜川の中流部に重点を起きました。天竜川の状況を知るのに諏訪湖の災害も必要と判断して、諏訪湖の氾濫など
についても採録しました。また、事実の確認は主としてこの地域の地方史・誌の類からいたしました。

本書をみていただければお分かりのように、戦国時代以前の知られている災害は、それ以降と比較すると大変少ないも
のです。これは災害がなかったことを示しません。現在に伝わっている史料がないだけなのです。逆にいうと、戦国時代
ぐらいを境にして多くの史料が現在に伝わるようになったのです。ここに事実を文字で伝えていこうとする人々の営みが
盛んになり、文字もそれだけ浸透してきたことが読み取れるかもしれません。いずれにしろ、災害の事実がこれ以前に多
く伝わっていないことの意味も考えてみる必要があります。

過去に災害が起きた場所は、再び災害が起きる可能性を秘めています。私達が、災害に備えるためには、ともかく災害
の事実を忘れなくすることが重要なのです。本書がその一助になれば幸いです。

凡例

●は史料集などからとったもの。

▲は編纂された年表などからとったもの。

災害の事実のあとに――（ ）として記されているのはその出典（参考）などとしてあるのは、多くの記載があること
を示す

洪水・水害年表

― 古代から中世まで ―

【仁和四年・八八八】

● 五月八日、信濃国地震あり、山崩れ川溢れ、六郡の人家流没す ― 『信濃史料』第二卷三〇九頁）

【寛治六年・一〇九二】

● 九月五日、信濃諸牧の貢馬、洪水のために逗留し、この日索進す ― 『信濃史料』第二卷五八〇頁）

【嘉保元年・一〇九四】

● 八月二〇日、信濃諸牧の貢馬、出水によりて逗留し、この日索進す ― 『信濃史料』第二卷五八六頁）

【文安五年・一四四八】

● 信濃飢饉、ならびに長雨あり ― 『信濃史料』第八卷二四七頁）

【長祿三年・一四五九】

● 九月一〇日、大雨大風吹く ― 『熊谷家伝記』年代記・富山村教育委員会・一九八七）

【文明一四年・一四八二】

● 諏訪地方に五月二五日より大雨、晦日、大水増し、大町・十日市場・安国寺押し流される。大町水海となり、人馬出入り十日ばかり絶える ― 『信濃史料』第九卷二七七頁）● 諏訪地方に閏七月二五日、大雨降る。次の日も大雨、大風吹く。五日市場・十日市場・大町大海となる。郡内海原となる ― 『信濃史料』第九卷二七九頁）● 数度の大水

増のため流され、田の面変じて瓦礫荒野となる — 『信濃史料』第九卷二八八頁

【天文二年・一五三三】

●五月二九日、天竜川大洪水 — 『信濃史料』第一卷三八頁 ●六月五日、洪水 — 『信濃史料』第一卷四二頁

●八月一七日、天竜川に水が出る — 『信濃史料』第一卷六一頁 ●九月一四日、大洪水。五月の洪水のごとし — 『信濃史料』第一卷六七頁 ▲五月、九月、大洪水（『東春近村誌』六六二頁・東春近村誌刊行委員会・一九八二）

【天文八年・一五三九】

●一二月一四日・一五日、諏訪地方に大雨・大水。橋ごとごとく流れ、西東の通路止まる — 『信濃史料』一一卷一四六頁

【天文九年・一五四〇】

▲四月、大洪水 — 『東春近村誌』六六二頁 ●八月一日、大風により諏訪に被害大。大町家十ばかり流れる。人

も三人 — 『信濃史料』第一卷一五三頁。洪水・大風吹く — 『熊谷家伝記』年代記。八月、大洪水 — 『東春近村誌』六六二頁

【天文一三年・一五四四】

▲七月九日、大鹿村で大洪水。横山七か寺、御堂島薬師流失 — 『大鹿村誌』中卷七九二頁・大鹿村誌刊行委員会・一九八四

【天文一九年・一五五〇】

▲七月・八月、大洪水 — 『東春近村誌』六六二頁

【永禄一二年・一五六九】

●六月二日以前に、小河郷（下伊那郡喬木村）と牛牧郷（高森町）が水害にあう——『信濃史料』第一三卷三一—九頁

【天正元年・一五七三】

●八月、洪水・大風吹く——『熊谷家伝記』年代記

【天正六年・一五七八】

▲五月二日、大洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』四頁・飯田史談会・一九三二）——『泰阜村誌』上卷三六一頁・泰阜村役場総務課・一九八四

【天正一三年・一五八五】

▲六月一日、洪水——『泰阜村誌』上卷三六一頁）▲六月、大洪水——『東春近村誌』六六二頁）

— 近 世 —

【文禄三年・一五九四】

●八月一〇日、洪水——『熊谷家伝記』年代記

【文禄四年・一五九五】

▲八月一日、洪水——『泰阜村誌』上卷三六一頁）▲八月、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』一八頁）

【慶長元年・一五九六】

●六月一日、二三日、信濃等到大洪水。百年以来の大水という―『信濃史料』第一八卷一七三頁

【慶長一三年・一六〇八】

▲正月、大洪水―『泰阜村誌』上卷三六一頁）▲本年大洪水―（今井白鳥編『近世郷土年表』二八頁）

【慶長一四年・一六〇九】

●八月一〇日、大雨・大風、一日に止む。一四日より再び雨、一六日大水―『信濃史料』第二〇卷四三九頁）

▲八月一〇日、大雨・大風―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九頁・伊那郷土史刊行会・一九六三）▲八月一六日、大洪水―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九頁）―『泰阜村誌』上卷三六一頁。天竜川の大島見えず―（村沢武夫『龍江村史』二四〇頁・甲陽書房・一九五二）

【慶長一七年・一六一二】

▲五月、天竜川大洪水。田中城三日町流失、竜東へ移る―『宮田村誌』上卷八三三頁・宮田村誌刊行会・一九八二）
▲天竜川大洪水にて箕輪郷の田中城およびその城下町である三日町が流失。三日町を天竜川東の現在の所に移した―（唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八三頁・上伊那教育会・一九二二）

【慶長一九年・一六一四】

▲八月、洪水―（今井白鳥編『近世郷土年表』三〇頁）―『泰阜村誌』上卷三六一頁）

【元和四年・一六一八】

▲五月、洪水―（『東春近村誌』六六二頁）―（今井白鳥編『近世郷土年表』三三三頁）―『泰阜村誌』上卷三六一頁）

【元和七年・一六二二】

▲八月一七日、大洪水―『泰阜村誌』上巻三六一頁)

【元和八年・一六三二】

▲八月二日、大洪水―(今井白鳥編『近世郷土年表』三五頁)―『川路村誌』年表・川路村誌刊行委員会・一九八八)。大洪水にて近藤領上穂村の田畑四町二反流失―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九八頁)

【寛永元年・一六二四】

▲四月、天竜川大洪水。田島村大水害を被る―(村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』四六頁・上伊那史談会・一九三九・青山社復刻・一九八二) ▲天竜川満水にて田島大水害あり、一部の山高遠原へ上る―(唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八三頁) ▲大田切、与田切の被害大―『宮田村誌』上巻八三三頁)

【寛永四年・一六二七】

▲八月、洪水―『東春近村誌』六六二頁)―『泰阜村誌』上巻三六一頁) ▲地震、洪水―『清内路村誌』下巻一八四頁・清内路村誌刊行会・一九八二)

【慶安元年・一六四八】

▲洪水―『東春近村誌』六六二頁)―(今井白鳥編『近世郷土年表』三六頁)―『泰阜村誌』上巻三六二頁)

【慶安三年・一六五〇】

▲三月、洪水・地震―(今井白鳥編『近世郷土年表』四五頁)―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁) ▲洪水―(今井白鳥編『近世郷土年表』四四頁)―『泰阜村誌』上巻三六二頁)

【承応元年・一六五二】

▲六月、大出水あり、川路村の被害甚大―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁) ▲本年大洪水、被害甚大

—（今井白鳥編『近世郷土年表』四六頁）

【承応二年・一六五三】

▲六月、大洪水。被害大——『東春近村誌』六六二頁）▲洪水——『泰阜村誌』上卷三六二頁）

【承応三年・一六五四】

▲洪水、高遠領民三〇〇〇人去る——『宮田村誌』上卷八三三頁）▲大洪水——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）

【明暦三年・一六五七】

▲大洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』四八頁）——『東春近村誌』六六二頁）

【万治三年・一六六〇】

▲四月一九日から八日間にわたる大雨——『川路村誌』年表）——『泰阜村誌』上卷三六二頁）。松川（下伊那郡）が氾濫——『鼎町史』上卷五五二頁・鼎町史刊行会・一九八六）▲四月、下伊那天竜川満水非常なり。一日より八日間水害多し——（唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八四頁）▲天竜川満水、下伊那に水損多し——『箕輪町誌』歴史編九六二頁）●諸国大水——『熊谷家伝記』年代記）

【寛文元年・一六六一】

▲六月、平岡方面大出水——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）。洪水——『泰阜村誌』上卷三六二頁）

【寛文二年・一六六二】

▲六月、洪水——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』五〇頁）——『泰阜村誌』上卷三六二頁）——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）

【寛文一〇年・一六七〇】

▲夏、洪水―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁) ▲大洪水―(『泰阜村誌』上卷三六二頁)

【寛文一二年・一六七二】

▲秋、洪水―(『箕輪町誌』歴史編九六二頁)

【延宝元年・一六七三】

▲正月、洪水―(『泰阜村誌』上卷三六二頁) ▲本年洪水―(今井白鳥編『近世郷土年表』五七頁)

【延宝二年・一六七四】

▲正月、洪水。七月洪水で水損七石五斗七升六合―(『泰阜村誌』上卷三六二頁) ▲天竜川満水、田の水損多い―

(『箕輪町誌』歴史編九六二頁)

【延宝三年・一六七五】

▲正月、洪水―(『泰阜村誌』上卷三六二頁)

【延宝四年・一六七六】

▲七月四・五日、大風雨、各河川出水し山の崩落あり、大洪水となる。この災害により年貢榎木三一万挺流失、家屋敷・田畑埋没および流失、人馬死傷あり―(『大鹿村誌』中卷七九二頁) ▲七月、洪水―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁)―(今井白鳥編『近世郷土年表』五八頁)―(『泰阜村誌』上卷三六二頁)

【延宝六年・一六七八】

▲八月、大洪水―(『東春近村誌』六六二頁)―(今井白鳥編『近世郷土年表』六〇頁)―(『泰阜村誌』上卷三六三頁)

【延宝七年・一六七九】

▲七月二〇日の満水により大田切山伐採木押し流され、盗木の禁止を百姓申し合わせる。―『駒ヶ根市誌』古代・中世編、別編年表三一九頁・駒ヶ根市教育委員会・一九九〇）▲この年の洪水で榑木流失一四万八四七九挺―『大鹿村誌』中巻七九二頁）

【延宝八年・一六八〇】

▲七月、洪水―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）▲天竜川満水―（『箕輪町誌』歴史編九六二頁）
▲二一八石余の水損―『駒ヶ根市誌』別編年表三二〇頁）

【天和二年・一六八二】

▲正月、洪水―（今井白鳥編『近世郷土年表』六二頁）―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）

【天和三年・一六八三】

▲大洪水―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）▲この年の洪水で榑木二三万三一九二挺流失―（『大鹿村誌』中巻七九二頁）

【貞享元年・一六八四】

▲青木川の洪水で、山崩れ地欠けがあり、土砂を押し流して耕地埋没。大鹿村の青木薬師堂は若宮社・薬師堂ともに災害を受け、破壊―（『大鹿村誌』中巻七九二頁）

【貞享四年・一六八七】

▲七月、洪水―（『南箕輪村誌』下巻四四八頁）

【元禄二年・一六八九】

▲五月、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』六七頁）——（『泰阜村誌』上卷三六三頁）▲洪水で樽木の流失四万二八八〇挺——（『大鹿村誌』中卷七九二頁）

【元禄三年・一六九〇】

●八月一五日、洪水——（『熊谷家伝記』年代記）

【元禄四年・一六九一】

▲五月、霖雨——（今井白鳥編『近世郷土年表』六九頁）——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）▲六月、洪水——（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）▲八月六日、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』六九頁）——（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）。洪水、永流田九畝九歩、畑一反六畝九歩、分米一石四斗七升五合——（『泰阜村誌』上卷三六三頁）▲八月、洪水——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）。「山村永流御引高写帳」には流失した本田新田

が一町一反九畝一六歩とある——（『鼎町史』上卷五五四頁）。大洪水にて堰切れ込む——（『川路村誌』年表）●未満水——（『長野県史』近世史料編第四卷（三）二〇一七号文書）▲大鹿村でも洪水被害——（『大鹿村誌』中卷二七九頁）

【元禄七年・一六九四】

▲八月、大洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』七一頁）——（『東春近村誌』六六二頁）▲洪水——（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）

【元禄八年・一六九五】

▲洪水——（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）

【元禄九年・一六九六】

▲洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』七二頁）——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁）

【元禄一〇年・一六九七】

▲五月、洪水 — 『泰阜村誌』上巻三六三頁) ▲九月、洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁)

【元禄一一年・一六九八】

▲五月一八・一九日、洪水、尺余満水。北殿村耕地の中へ川筋入る — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁) ▲五月、満水 — 『伊那市史』上巻一一三五頁・伊那市史刊行会・一九八四) ▲五月中旬、満水。田地多く流失 — 『箕輪町誌』歴史編九六三頁) ▲五月、天竜川大洪水にて下平村へ切れ込み未曾有の大惨事を起こした。殊に南下平は過半水を蒙り田畑屋敷の流失夥しく約高五〇〇石の地が川欠となる。天竜川沿いの家屋敷を西方へ移した — (村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』一〇〇頁)。飯田の大久保の橋落つ — (今井白鳥編『近世郷土年表』七三頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁) ▲六月五日、天竜川洪水。下平村新田に被害出る — 『駒ヶ根市誌』別編年表三三六頁) ▲八月九日、天竜川再び満水。六月の洪水と合せて下平村新田五六石余流失 — 『駒ヶ根市誌』別編年表三三六頁) ▲この年の洪水で、天竜川の本流が北殿村の水田地帯中央に切り込む — 『南箕輪村誌』下巻四四七頁)

【元禄一二年・一六九九】

▲八月、大風雨にて天竜川大洪水。昨年五月の大洪水に次ぐ洪水にて、下平村に大水害 — (村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』一〇二頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九九頁) — (今井白鳥編『近世郷土年表』七三頁) — (『泰阜村誌』上巻三六三頁) ▲天竜川洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁)。洪水で榎木の流失七万二九九一挺 — 『大鹿村誌』中巻七九二頁)

【元禄一三年・一七〇〇】

▲九月、洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁)

【元禄一四年・一七〇一】

▲八月、洪水 — 『泰阜村誌』上巻三六三頁 — (今井白鳥編『近世郷土年表』七五頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁)

【元禄一五年・一七〇二】

▲八月、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』七六頁) — 『泰阜村誌』上巻三六三頁 — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁)

【元禄一六年・一七〇三】

▲六月二日より高遠で強い雷雨。一一か村に雹が降り、一二日強雨で、都合一六か村、田畑高千十石余損毛 — 『高遠町誌』上巻歴史二 — 五四一頁・高遠町誌刊行会・一九八三) ▲翌二二日にも豪雨。高遠領一六か村、高五、〇一〇石余のところ被害大、中沢郷二か村被災の由 — 『駒ヶ根市誌』別編年表三三九頁)

【宝永元年・一七〇四】

▲七月一日、洪水・凶作 — 『泰阜村誌』上巻三六三頁) ▲七月、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』七七頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁) ▲洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁)

【宝永二年・一七〇五】

▲六月二七日、洪水。永流田九畝六歩、畑四畝四歩、分米二斗三升五合。七月一三日、洪水 — 『泰阜村誌』上巻三六三頁) ▲六月二七・二八日、洪水。七月一三日、再洪水田畑流失多し。七月二四日、幕府の役人水害視察 — (今井白鳥編『近世郷土年表』七九頁) ▲六月二八日、元禄一五年にできた元橋が豪雨により流失。備中原に山崩れが数カ所あり。大洪水のため浄久寺境内が過半流失 — 『阿智村誌』年表二二頁・阿智村誌刊行委員会・一九八四) ▲六・

七月、洪水。三峰川沿いおよび三峰川合流地以南の被害が大きい。――『伊那市史』歴史編二 一一八頁・伊那市史刊行会・一九八四）▲六月、満水――『箕輪町誌』歴史編九六三頁）▲六月・七月、大出水にて田畑流失――（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）――『南箕輪村誌』下巻四四八頁）

【宝永四年・一七〇七】

▲六月、洪水――『南箕輪村誌』下巻四四八頁）――（今井白鳥編『近世郷土年表』八二頁）――『泰阜村誌』上巻三四四頁）――（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）

【宝永五年・一七〇八】

▲九月、洪水――『南箕輪村誌』下巻四四八頁）――（今井白鳥編『近世郷土年表』八三頁）――『泰阜村誌』上巻三四四頁）――（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）

【正徳元年・一七一一】

▲八月一九日、諏訪湖満水――『諏訪湖氾濫三百年史』三九頁）▲九月、洪水――（今井白鳥編『近世郷土年表』八四頁）――『泰阜村誌』上巻三四四頁）

【正徳二年・一七一二】

▲八月一九日、諏訪湖満水――（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八・三九頁）

【正徳四年・一七二四】

▲八月八日、松川満水――（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）▲八月、洪水――『泰阜村誌』上巻三四四頁）

【正徳五年・一七二五】

●六月一七日より一八日まで大満水——『長野県史』近世史料編第四卷（一）一〇四三・（三）一八九一・一八九二・二〇一七号・二二二〇・二二二一・二二二三文書）▲六月一七日より一八日まで高遠風雨、川々満水。橋三六か所、民家二三件流失——『高遠町誌』上巻歴史二——五四一頁）▲六月一七日から二四日にかけて大降雨。小渋川は用材二〇〇三本を流失、大河原・鹿塩両山本場にあった材木は、山崩れ、出水で埋没または流散——『大鹿村誌』中巻七九三頁）。六月一七日、豪雨、伊那郡に被害が広がった。いわゆる「未の満水」。但し被害は天竜川より中小河川に甚だしく、南下平村・上赤須村などの被害が顕著——『駒ヶ根市誌』別編年表三四五頁）。毛賀村庄屋木下勘左衛門手記「正徳五年未の六月十五日より雨少々つつ降り、十九日の八ツ時に大雨になり、風雨出で半時ばかり強く降り候処ことの外岩崩、無数有之、大水出にて世間死人多し。野底川押出し、野底にても家流れ、人馬共に死す。天王原より登山の根を限り渡場流れ候。大石共柿木島に押しかけ、此時柿木島に出来候。」——『鼎町史』上巻五五二頁・鼎町史刊行会・一九八六）。北方村旧記「正徳五乙未年六月十七日より二十四日大雨降り続き大洪水、是を松川未満水と言う。此時円悟沢山抜け、伊賀良井口大石を押し出す。須志角家屋十八軒押し流される。」——『鼎町史』上巻五五三頁）▲六月一八日、大満水。土曽川通り八段、天竜新田二町歩流失、別府村は田九町四反六畝、畑三町一反一畝二〇歩流失、野底川三ツ井切れる。飯田領二万石のうち八〇〇〇石余流失——『上郷史便覧』七頁）▲飯田領内の被害状況「山村未ノ永流帳」——田畑高七八二五石——永流当流押共、流家・水押・半潰家屋——一八軒、内五六軒流家、落橋——九ヶ所、井関押切——四八ヶ所、道崩——五二町、材木流失——一五〇本——『鼎町史』上巻五五五頁）。「山村永流御引高写帳」には流失した本田新田は七町八反八畝二四歩とある——『鼎町史』上巻五五五頁）。満水による昼神村の年貢引き、川欠二石七斗、砂入一斗八升——『阿智村誌』年表二三頁）。南山三六か村のうち北部の一二か村では本田の山崩れ砂入三九反歩、水押し流され二六町九畝に及んだ——『泰阜村誌』上巻三五九頁・泰阜村役場総務課・一

九八四) ▲六月一七日から二四日、大洪水、未満水。金野村他一二か村で被害、田流失一六町五畝、山崩れ入三町八反―『泰阜村誌』上巻三六四頁) ▲六月、大災害。未満水までの天竜川の流路は、高森町河岸段丘下の下平・吉田・下市田・武陵地・中河原を通っていた。つまり、見晴段層東側の河岸段丘西側を主な流路とし、現在の豊丘村方面に、氾濫原が広がっていた。ところが、未満水時に、中央アルプスの崩落による土石流が西側から押し出し、高森町に大量の土砂(出砂原)を堆積させてしまった。この出砂原地籍の出現により、天竜川が東方へ押され、現在のように氾濫原の中央をゆったりと流れることになった。(中略) 未満水の土石流で出現した出砂原により、天竜川は堰止められ、山吹・河野一帯は満水(湖)となった。やがて土石が切れ、豊丘村林伴野方面へ流れこんだ(山吹藩片桐家老日記)といわれている。逆に西側は出砂原の形成により、高森町下市田河原・座光寺・飯沼河原は干あがり、開田可能地域となった。―『歴史の道調査報告書 天竜川』七五頁・長野県教育委員会・一九九〇) ▲六月一八日、伊那郡中未曾有の大洪水あり。田畑、野底川大石を流し出す。島田辺は流失家屋六十四、死人三十三人、馬六匹、田畑流失七千八百石余、米高百三十俵三斗二升三合。困窮者へ救助米として一人に付米一合宛分与。飯田も大洪水ありて風越山諸山一時に崩し飯田を襲はんとす、人民立退市中火災あり、五十六軒流失其他田畑七千八百石の地永流等あり、百八十年以来の大洪水なりと伝へたり。暴風雨山崩のため野尻村の須佐男社流潰す―(唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八五頁) ▲八月一日、大風雨―(今井白鳥編『近世郷土年表』八七頁)

―(参考)『松尾村誌』一七七頁(松尾村誌刊行委員会・一九八二)、『下久堅村誌』四七二頁(下久堅村誌刊行会・一九七三)、『片桐村誌』三七五頁(中川西公民館・一九六六)、『上片桐村誌』四一二頁(上片桐村誌編纂委員会・一九六五)、村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』一一五頁(青山社・一九八二)、『宮田村誌』上巻八三四頁(宮田村誌刊行会・一九八二)、『喬木村誌』五三六頁(喬木村誌刊行会・一九七二)、今井白鳥編『近世郷土年表』八七頁、

村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一四頁、『川路村誌』一八九頁（川路村誌刊行委員会・一九八八）

—（史料）「山吹藩史料」（『新編伊那史料叢書（三）』四三九頁・歴史図書社・一九七五）

【享保元年・一七一六】

▲二月二九日、昨年来の強雨にて松川上下橋落つ。八月、洪水 —（今井白鳥編『近世郷土年表』八八頁）

—（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一三・一〇〇頁）▲三月一日、洪水。四月八日から一五日、大洪水。永流

田畑一町六畝七歩、分米九石九升八合。八月一日、大風雨。八月、洪水 —『泰阜村誌』上卷三六四頁）▲八月、松

川氾濫 —『鼎町史』上卷五五三頁）。前代未聞の大洪水で田畑六・七分どおり荒れ所 —『大鹿村誌』中卷七九三頁）

【享保二年・一七一七】

▲地震・洪水 —『清内路村誌』下卷一八四頁）

【享保三年・一七一八】

▲七月より八月中まで、諏訪湖折々大満水 —『諏訪湖氾濫三百年史』三九頁）▲七月二六日、高遠に地震。城内に

被害出る —『駒ヶ根市誌』別編年表三四七頁）。「山村永流御引高写帳」には流失した本田新田が八反三畝一六歩と

ある —『鼎町史』上卷五五四頁）

【享保四年・一七一九】

▲七・八月、諏訪湖折々満水 —『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁）▲八月一四日から翌一五日まで豪雨。高遠領内損

毛二、三八〇石余、川除流失被害等あり、その旨幕府へ報告 —『駒ヶ根市誌』別編年表三四八頁）。天竜川氾濫、

田畑二・二八〇石流れる —『宮田村誌』上卷八三三頁）▲八月一五日、大洪水。被害頗る多し、世人亥年の洪水と

いうー（今井白鳥編『近世郷土年表』九四頁）ー（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）ー（『川路村誌』一九〇頁）。永流田一反五畝二八歩、畑八反一〇歩ー（『泰阜村誌』上卷三六四頁）▲八月、大洪水。亥の洪水というー（『東春近村誌』六六二頁）

【享保五年・一七二〇】

▲五月、松川大洪水ー（『鼎町史』上卷五五三頁）ー（『泰阜村誌』上卷三六四頁）▲五月、天竜川洪水。八月、再洪水ー（村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』一二二頁）▲七月一五日より大雨降り一七日、諏訪湖大満水。角間川百年もなき大水ー（『諏訪湖氾濫三百年史』三九頁）▲天竜川洪水。八月、満水ー（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）▲八月七日、洪水ー（『泰阜村誌』上卷三六四頁）。大水、松川上橋破損すー（今井白鳥編『近世郷土年表』九六頁）▲洪水二回ー（『清内路村誌』下卷一八四頁）

【享保六年・一七二一】

▲七月一五日より大雨降り、一七日、諏訪湖大満水ー（『諏訪湖氾濫三百年史』一九・三六頁）▲七月一六日、翌一七日にかけて大雨、満水。高遠領内田畑三、三五〇石余損毛の旨幕府へ届け出るー（『駒ヶ根市誌』別編年表三五〇頁）▲閏七月二〇日、松川出水。秋大暴風雨、流失田畑多しー（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇〇頁）。河内川の大洪水により家屋田畑の大半が流失する。洪水のため元橋流質ー（『阿智村誌』年表一四頁）。波合村四七軒のうち二九軒が流失ー（『波合村誌』五二八頁・浪合村誌刊行会・一九八四）▲八月、諏訪湖大満水ー（『諏訪湖氾濫三百年史』三九頁）▲洪水、田畑村井堰込樋流出ー（『南箕輪村誌』下卷四四八頁）

（参考）『宮田村誌』上卷八三三頁、『川路村誌』一九〇頁

【享保八年・一七二三】

▲八月、諏訪湖満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九・三九頁。洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四八頁 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一〇〇頁) — (『泰阜村誌』上巻三六五頁)

【享保九年・一七二四】

▲八月六日、大風雨。被害多し — (『赤須・上穂旧記録鈔』一二四頁) — (今井白鳥編『近世郷土年表』一〇一頁) — (『泰阜村誌』上巻三六五頁)

【享保一〇年・一七二五】

▲諏訪湖大満水大荒れ — (『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁) ▲五月の満水で、北殿村川欠 — (『南箕輪村誌』下巻四四七頁・南箕輪村誌刊行委員会・一九八五)

【享保一一年・一七二六】

▲五月一八日より、諏訪湖大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』三九頁) ▲表木村の枝村鍛冶ヶ島、高千四百四十二升四合が全部流失 — (『長野県上伊那誌』第二巻歴史一〇九七頁・上伊那誌刊行会)。鍛冶ヶ島新田家居迄不残流れ尽し立所も無之体、本村へ上り所々之野つれ、又は諏訪形原之街道筋へ小屋がけ致、田地無之もの共少々の売屋等致一日を送り候仕合候而、本村共ニ困窮に及果候」(殿島村・大西家文書) 享保十一年の大洪水は天竜川上流からの増水はもちろんのこと、三峰川、大沢川の集中豪雨によつての増水は狭い伊那峡につまつて大満水となったものである。この逆流満水によつて鍛冶ヶ島の高一、四四二石の田と一四戸の民家全部が流失したのである。そこで此の一四戸が親村をたよつて表木村へ移住したが、本村も共々困窮したので、伊那街道へ小屋がけをして、茶店などのその日暮しをしていた。またそのうちの何戸かは三峰川筋の青島村へ移住したという。 — (『伊那市史』歴史編一一四五頁・伊那市史刊行会・一九八四)。大洪水、家屋七戸流失、蛇抜け一五谷 — (『清内路村誌』下巻一八四頁)

(参考)『宮田村誌』上巻八三三頁

【享保一二年・一七二七】

▲五月一八日より諏訪湖大満水。五月より七月迄雨降り、八月二日より一〇月まで雨降り〔諏訪湖氾濫三百年史〕
一九・三九頁) ▲大水害。家屋流失、上清内路三戸 ―〔清内路村誌〕下巻一八四頁)

【享保一三年・一七二八】

▲八月一三日、四日よりの雨にて松川橋、野底橋流失。谷川田地流れる ―〔今井白鳥編『近世郷土年表』一〇四頁〕
―〔村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』二四・一〇〇頁〕 ▲八月一三日、豪雨があり河内村から山本村へ復旧のため
人足四五人、合原・大島・恩沢・鴨目の村々へ普請人足四十二人出す ―〔阿智村誌〕年表一五頁) ▲八・九月、洪水。
川欠多し ―〔南箕輪村誌〕下巻四四八頁) ▲大洪水。家屋流失、上清内路八戸、下清内路六戸 ―〔清内路村誌〕
下巻一八四頁)

【享保一四年・一七二九】

▲八月一三日、四日よりの雨で洪水。九月、洪水・凶作 ―〔泰阜村誌〕上巻三六五頁) ▲九月朔日、諏訪湖大満水
―〔諏訪湖氾濫三百年史〕四〇頁)

【享保一五年・一七二九】

▲九月一日、諏訪湖大満水 ―〔諏訪湖氾濫三百年史〕一九頁)

【享保一六年・一七三〇】

▲四月、洪水 ―〔泰阜村誌〕上巻三六五頁) ▲五月九日より断続的に雨降り、一六日から二三日にかけて雨、天竜
川大洪水。五月、大満水にて田地流失、伊那郡より上、天竜川の橋残らず流失 ―〔箕輪町誌〕歴史編九八四・九六

三頁・箕輪町誌編纂刊行委員会・一九八六）▲五月、柿木島大川除切込み、思い川筋百間ばかり欠ける（『鼎町史』上巻五五三頁）。「五月、雨降り続き天竜の高水十七年以前ひつじ満水よりも大事と申し候、当村（島田村）天竜端の新田全部流失仕り候、手前松林の近所八十間程も欠け込み候、扱松川辺柿木島川除切込み山下江ぬけ、忠四郎田地よほど欠込候、同八月七日満水いたし候、松川辺の儀近年の大水にて候、柿木島大川除切込み、思ひ川井筋百間計り欠け水不通候故上溝井をかけ候」（『松尾村誌』一七八頁）▲四月、洪水。八月、大洪水。八月、又洪水。殊に八月は大洪水にて、天竜川氾濫し、下平村は田畑流失が多く、後世是を「亥の川欠」と云ふ（『赤須・上穂旧記録』一三三頁）▲四・八・九月、洪水。八月、天竜川大氾濫。川欠多し、「亥の川欠」という（『南箕輪村誌』下巻四八頁）（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』二五・一〇一頁）▲大雨洪水、二回（『清内路村誌』下巻一八四頁）

（参考）『南箕輪村誌』下巻四四五頁（南箕輪村誌刊行委員会・一九八五）

【享保一七年・一七三〇】

▲洪水（『南箕輪村誌』下巻四四八頁）

【享保一八年・一七三二】

▲七月九日、洪水（今井白鳥編『近世郷土年表』一〇八頁）（『泰阜村誌』上巻三六五頁）▲七月、洪水（『赤須・上穂旧記録』一三五頁）

【享保一九年・一七三四】

▲八月、洪水（『南箕輪村誌』下巻四四八頁）（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇一頁）▲秋、洪水（今井白鳥編『近世郷土年表』一〇九頁）（『泰阜村誌』上巻三六五頁）

【享保二〇年・一七三五】

▲大雨・洪水二回 — 『清内路村誌』下卷一八四頁)

【元文元年・一七三六】

▲十一月九日、暴風雨 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一一〇頁) — 『泰阜村誌』上卷三六五頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』二六頁)

【元文二年・一七三七】

▲洪水 — 『南箕輪村誌』下卷四四八頁) — 『清内路村誌』下卷一八四頁)。鍛冶が島新田家屋悉く流失、四散。中越下河原村は屋村に移住 — 『宮田村誌』上卷八三三頁)

【元文三年・一七三八】

▲五月一九日、満水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一一一頁) — 『泰阜村誌』上卷三六五頁)。満水。島田村の佐兵衛の家が流れ、三〇数軒が水浸し — 『喬木村誌』五五三頁)。▲五月二七日、大雨、天竜川大満水。天竜川氾濫、三日町にて人家流失、天竜川上流より人馬流れ来る、山鳴り谷崩れ前代未聞の大満水 — 『箕輪町誌』歴史編九八六・九六三頁)。▲五月、下の井、五月中の満水で井筋五〇〇軒ほど流失。五月中の大雨。洪水により高遠領田畑高一五、五六四石余被害、そのほか家屋流失・堰・道橋・人畜に被害の旨、六月一六日に幕府へ報告、南・北下平村、五月の洪水で川除一六〇間欠潰、田畑の被害甚大、家屋流失二軒、石砂入二四軒などを出す — 『駒ヶ根市誌』別編年表三六八頁)。▲五月より八月に涉り大雨甚だしく人家を流し道路橋梁堤防等を破壊し、又田畑流失頗る多く、高遠領中にて田畑高一万五千五百余石の損失あり — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八六頁)。五月より八月雨降、八月洪水田畑流失。五月、大田切川満水にて、大田切下の井、堰口五百余間が押し流され、堰水通ぜず、折節、田植不能に

陥るー『赤須・上穂旧記録鈔』一三九頁ー『赤須・上穂旧記録鈔』一三九頁) ▲八月、洪水。伏越樋流失ー『南箕輪村誌』下巻四四八頁) ▲太田切川沿岸の田畑流失、御分杭の移転。天竜川満水、田畑一五、五〇〇石損耗ー『宮田村誌』上巻八三三頁)

(参考)『松川村誌』一七八頁(松川村誌刊行委員会・一九八二)、『下久堅村誌』四七二頁(下久堅村誌刊行会・一九七三)、『南向村誌』六三二頁(中川東公民館・一九六六)

【寛保元年・一七四一】

▲六月、洪水ー(今井白鳥編『近世郷土年表』一一五頁)ー『泰阜村誌』上巻三六五頁)ー(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』二六・一〇二頁) ▲洪水ー『清内路村誌』下巻一八四頁)

【寛保二年・一七四二】

▲六月、南・北下平村、この月の満水で家屋流失四軒・浸水一八軒の被害ー『駒ヶ根市誌』別編年表三七二頁)
▲七月・八月、大洪水。戊の満水というー『東春近村誌』六六二頁) ▲八月六日より二十日まで大雨。天竜川洪水ー『赤須・上穂旧記録鈔』一四三頁) ●八月、諏訪文出村満水ー『長野県史』近世史料編第三巻五五七号文書)
▲八月、諏訪湖満水ー『諏訪湖氾濫三百年史』二四頁)。天竜川また溢れ沿岸被害ありー(唐沢貞治郎『上伊那郡史』五八六頁)。洪水ー『泰阜村誌』上巻三六五頁) ▲洪水ー『南箕輪村誌』下巻四四八頁)。大雷雨、山西部に田畑、古木を流し、八〇年来覚えぬ大雷雨ー『箕輪町誌』歴史編九六三頁)

【寛保三年・一七四三】

▲五月、赤須町、当月六日から二〇日までの大雨で天竜川出水。赤須町分水田一反歩余流失の旨、飯島役所へ進呈するー『駒ヶ根市誌』別編三七四頁)

【延享三年・一七四六】

▲八月一九日、高遠大雨で川々満水。所々破損、田畑損亡——『高遠町誌』上巻歴史二—五四一頁）

【延享四年・一七四七】

●八月一九日夜中、大風——『長野県史』近世史料編第四卷（一）一〇四六号文書）▲八月、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二五頁）

【寛延元年・一七四八】

▲五月六日、諏訪湖大満水。七月五日、満水——『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁・二五・四〇頁）▲洪水、北殿村天竜川本瀬切込——『南箕輪村誌』下巻四四八頁）

【宝暦元年・一七五一】

▲御竿以後、諏訪湖大洪水——『諏訪湖氾濫三百年史』四〇頁）

【宝暦三年・一七五三】

▲八月、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二五頁）▲八月一七日、満水。天竜川筋田地多く流失——『箕輪町誌』歴史編九六三頁）●八月、天竜川出水。下川路・時又の川除破損——『長野県史』近世史料編第四卷（三）二〇一七号文書）▲洪水——『南箕輪村誌』下巻四四八頁）▲夏、大雨・洪水——『清内路村誌』下巻一八四頁）

【宝暦五年・一七五五】

▲五月より八月まで雨天がち——（今井白鳥編『近世郷土年表』一三三頁）。大洪水、亥の満水という——『東春近村誌』六六二頁）——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇二頁）——『清内路村誌』下巻一八四頁）▲夏、天竜川洪水。是を「亥年の洪水」と言う。川欠多く、両下平の田畑が流失したので、両下平の人々協力して、惣人足で川除

林に松の木を植えて、将来の災害に備えた — 『赤須・上穂旧記録鈔』一五五頁） ▲一〇月一・二日、諏訪湖大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』四〇頁）

【宝暦六年・一七五六】

▲五月初めより、諏訪湖大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』四〇頁） ▲大雨・洪水 — 『清内路村誌』下卷一八四頁）

【宝暦七年・一七五七】

▲四月八日より五月六日まで洪水 — 『唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八六頁） ●四月より六月まで洪水。洪水で福島枝郷大久保大地へ沈む — 『熊谷家伝記』七ノ卷） ▲五月一日より諏訪湖大満水。五月・八月、大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九・四〇頁） ▲五月、満水。伊久間村も大被害、村方七分が流れた — 『喬木村誌』五五一頁） ▲六月、洪水 — 『今井白鳥編『近世郷土年表』一三三頁） — 『泰草村誌』上卷三六五頁） ▲洪水、北殿村のみで田方二〇〇石流失 — 『南箕輪村誌』下卷四四八頁） ▲大雨 — 『清内路村誌』下卷一八四頁）

【宝暦八年・一七五八】

▲五月八日、諏訪湖大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁）

【宝暦十一年・一七六一】

▲洪水 — 『南箕輪村誌』下卷四四八頁）

【宝暦十二年・一七六二】

▲四月、諏訪湖、南之丸水つく — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁）

【明和元年・一七六四】

▲五月中、諏訪湖大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九・四〇頁） ▲七月、大洪水 — 『今井白鳥編『近世郷土年

表』一三九頁) — 『泰阜村誌』上卷三六五頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇一頁) ▲洪水二回 —
『清内路村誌』下卷一八四頁)

【明和二年・一七六五】

●四月一六日、大雨で小原村(高遠町)瀬戸堤大破 — 『長野県史』近世史料編第四卷(一)四三三五号文書) ▲四月、洪水あり — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八七頁) ▲四月・五月、両度大満水にて田地多く損亡 — 『箕輪町誌』歴史編九六三頁) ▲四・五月、大洪水。八月四日、大出水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一四〇頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇一頁) ▲五月、大洪水。八月、再洪水 — 『赤須・上穂旧記録鈔』) — 『川路村誌』一九一頁) ▲五月・八月、洪水 — 『泰阜村誌』上卷三六五頁) ▲六月二四日、高遠川々満水。田畑破損 — 『高遠町誌』上卷歴史二一五四一頁) ▲一〇月、下平川原開発予定地、当年五・八月の洪水による川欠のため計画の変更を申し出る — 『駒ヶ根市誌』別編年表三九九頁)

▲この年川欠被害あり。上赤須村一二石九斗八升九合川欠・砂入山崩引、小町屋村同二九石四升四合・同、北下平村一石七斗六升五合・同 — 『駒ヶ根市誌』別編年表三九九頁)

【明和三年・一七六六】

▲水害あり — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八七頁)。洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一四〇頁) —
— 『泰阜村誌』上卷三六六頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇一頁)

【明和五年・一七六八】

▲四月中、諏訪湖大満水。四月・五月、大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一九・四一頁) ▲この年、諸川洪水。田畑に川欠被害出る — 『駒ヶ根市誌』別編年表四〇一頁) ▲洪水、天竜川満水。川瀬変り防留等流失 — 『南箕輪村

誌』下卷四四八頁)

【明和六年・一七六九】

▲五月、諏訪湖満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』一九・四一頁) ▲八月、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一四二頁) — (『泰阜村誌』上卷三六六頁)

【安永元年・一七七二】

▲八月、諏訪湖大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』一九頁)。大満水 — (『東春近村誌』六六二頁) ▲夏、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一四八頁) — (『泰阜村誌』上卷三六六頁)

【安永二年・一七七三】

▲九月一日、大洪水。交通断絶 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一四九頁) — (『泰阜村誌』上卷三六六頁)

【安永四年・一七七五】

▲五月・六月、諏訪湖満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』四一頁) ▲七月・八月、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一五〇頁) — (『泰阜村誌』上卷三六六頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇二頁) ▲八月、洪水 — (『南箕輪村誌』下卷四四八頁)

【安永五年・一七七六】

▲五月六日、諏訪湖大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二二頁)

【安永七年・一七七八】

▲五月中旬より諏訪湖度々満水致し、別而八月大満水にて下地通皆無に御座候 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四一頁) ▲五月、八月、大洪水 — (『東春近村誌』六六二頁)

【安永八年・一七七九】

▲五月中、諏訪湖満水。八月二五・六日、大満水。九月、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』四一・二八頁）
▲七月二六日、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』一五三頁）——『泰阜村誌』上卷三六六頁）▲七月・八月、大洪水——『東春近村誌』六六二頁）▲八月、満水——『箕輪町誌』歴史編九六四頁）▲洪水、田方損失多し——『南箕輪村誌』下卷四四九頁）。大洪水、下清橋場大橋流失——『清内路村誌』下卷一八四頁）

【安永九年・一七八〇】

▲六月、霖雨——『泰阜村誌』上卷三六六頁）

【天明二年・一七八二】

▲七月下旬、諏訪湖大満水——『諏訪湖氾濫三百年史』四一頁）▲洪水、田方損失多し——『南箕輪村誌』下卷四四九頁）▲大風雨——（今井白鳥編『近世郷土年表』一三三頁）——『泰阜村誌』上卷三六六頁）——『川路村誌』一九一頁）

【天明三年・一七八三】

▲七月、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二九・四二頁）▲八月四日、洪水——『南箕輪村誌』下卷四四九頁）
▲大洪水、橋場大橋流失——『清内路村誌』下卷一八四頁）

【天明六年・一七八六】

▲六月、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二九頁）

【天明七年・一七八七】

▲洪水——『南箕輪村誌』下卷四四九頁）

【寛政元年・一七八九】

▲五月中、諏訪湖満水致し、阿原通りは苗切候も御座候。其以後大満水度々別而八月二十五日大満水いたし、四小路の内舟止岸通り六十軒ほど水入申候―『諏訪湖氾濫三百年史』二二頁) ▲六月一七日より一九日まで大雨降り、高遠領内損毛二、一九一石―『高遠町誌』上巻歴史(二)五八〇頁) ▲六月一七日・一八日、大洪水―(唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八八頁) ▲六月一七日・一八日両日、天竜川満水にて、沿岸地方に被害あり、殊に高遠領内に田畑流失多し。八月、再び洪水あり―『赤須・上穂旧記録鈔』二二一頁) ▲六月一八日、満水、酉の満水―『東春近村誌』六六二頁)。大洪水、福寿院裏山崩れ水、庫裏全壊―『泰阜村誌』上巻三六六頁)。六月一八日、天竜川氾濫、田畑人家流失、松川橋落つ、島田村割石堤防決壊―(今井白鳥編『近世郷土年表』一六三頁)、上茶屋一一軒、由政向い三軒流失、流死二人―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』四六・一〇二頁)、川路村大半水中に没す―『川路村誌』一九一頁)。四日間大雨降る。土曾川筋大被害―『上郷史便覧』一〇頁・上郷史刊行会・一九七八) ▲六月、大満水。伊那より三州まで言語につくしがたき大荒れ―『箕輪町誌』歴史編九六四頁)。天竜川大満水。高遠領内田畑流失多し。八月、洪水―『宮田村誌』上巻八三三頁)。大雨・洪水―『清内路村誌』下巻一八四頁) ▲七月一八日、内藤氏、六月一七日から一九日の大雨、満水により領分田畑被災の旨幕府へ届け出る―『駒ヶ根市誌』別編年表四二二頁) ▲鹿塩川大洪水。川筋の農民田畑・家屋流失、大河原河川大洪水、田畑流失―『大鹿村誌』中巻七九四頁)

―(参考)『喬木村誌』五四二頁、『上片桐村誌』四一二頁

【寛政二年・一七九〇】

▲九月、諏訪湖満水―『諏訪湖氾濫三百年史』三〇頁)

【寛政三年・一七九一】

▲八月、諏訪湖大満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁

【寛政四年・一七九二】

▲五・六月、諏訪湖満水。七月二三日、大雨にて五六尺満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁）▲五月・六月、大出水。七月一三日、洪水 — 『東春近村誌』六六二頁）▲六月二七日、大洪水 — （今井白鳥編『近世郷土年表』一〇二頁） — （村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇二頁）▲大風雨、稲伏戸薬師堂全壊。七月一三日、大洪水 — 『泰阜村誌』上卷三六七頁

【寛政六年・一七九四】

▲六月二七日、洪水 — 『泰阜村誌』上卷三六七頁

【寛政八年・一七九六】

▲六月、雨天がち、洪水 — 『南箕輪村誌』下卷四四九頁

【寛政一〇年・一七九八】

▲松川出水 — （今井白鳥編『近世郷土年表』一七五頁）

【寛政一一年・一七九九】

▲五月一七日、大雨のため左武林（小八郎岳）の山腹が崩壊して、正徳五年の未満水に次ぐ大災害が発生 — 『上片桐村誌』四一三頁（上片桐村誌編纂委員会・一九六五）

【享和元年・一八〇一】

▲復興中途にて中越下河原ことごとく流失 — 『宮田村誌』上卷八三三頁

【享和二年・一八〇二】

▲植付後、諏訪湖段々満水、別而七月朔日大満水にて川端通所切云々 ― 『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁）

【享和三年・一八〇三】

▲六月、満水。川欠多し ― 『南箕輪村誌』下巻四四九頁） ▲六月、洪水 ― （今井白鳥編『近世郷土年表』一八一頁） ― 『泰阜村誌』上巻三六七頁）

【文化元年・一八〇四】

▲八月、諏訪湖満水 ― 『諏訪湖氾濫三百年史』四二頁） ▲八月、大満水。上殿島村へ三峰川切り込む、子の満水 ― 『東春近村誌』六六二頁）。洪水 ― 『南箕輪村誌』下巻四四九頁） ▲八月二八日、松川出水。御川除危険につき一三町より人足三九人出る ― （今井白鳥編『近世郷土年表』一八二頁）。八月二九日、天竜川大洪水。子の満水という ― （村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁） ― 『川路村誌』一九二頁） ▲九月一日、大雨のため駒場城山下の新田、上川原、島垣外、残らず流失。中関村前沢川が崩れ、三反歩損地 ― 『阿智村誌』年表二三頁）

【文化二年・一八〇五】

▲田植時分、諏訪湖満水 ― 『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁） ▲八月、洪水 ― 『清内路村誌』下巻一八五頁）

【文化三年・一八〇六】

▲七月、洪水あり。田畑四千二百十四石、民家五十一軒、水入砂押五百二十八軒等の惨害あり ― （唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八八頁） ▲洪水 ― 『南箕輪村誌』下巻四四九頁）

【文化四年・一八〇七】

▲五月二七日より六月三日まで、大雨。大洪水にて田畑流失多く、殊に天竜川、上穂沢川、大田切川、中川、大満水

にて赤須町地籍のみで川欠、砂入、川成の田地、四町七反歩に及んだ。上赤須村は田畑過半流失損害甚大——『赤須・上穂旧記録鈔』二二九頁）▲五月二八日よりの大洪水で、六月三日までに川々沢々大荒れ。伊那部大橋も落ちる——『辰野町誌』歴史編九五七頁）▲五月二九日から六月三日にかけて大雨、田畑道橋に被害出る。内藤氏今夏の被害について明細を幕府へ報告する。被害田畑四、二四石余、民家五一軒（流失か）、水入砂押五二八軒、圧死一人・流死二人等——『駒ヶ根市誌』別編年表四四〇頁）▲五月晦日より六月朔日に至り、諏訪湖大満水。岡田一面にかぶり所々切口——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四二頁）▲六月一日・四日。天竜川洪水——『喬木村誌』五五二頁）▲六月二日、大満水。天竜筋前代未聞の大荒れ——『箕輪町誌』歴史編九六四頁）▲六月三日、強雨、川々満水。田畑損毛、高遠領内にて四、二四石余、民家五二戸水入、砂押し五二八戸、圧死男一人、流死男二人——『高遠町誌』上巻歴史（二）五八〇頁）▲六月、下島古新田の過半が流る——『唐沢貞治郎』『上伊那郡史』六八八頁、『伊那市史』歴史編一一四四頁・伊那市史刊行会・一九八四）▲洪水、凶作——『南箕輪村誌』下巻四四九頁）——『泰阜村誌』上巻三六七頁）

【文化五年・一八〇八】

▲五月下旬より、諏訪湖大満水。度々切口所々に有之——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四二頁）▲六月二一日、大満水——『箕輪町誌』歴史編九六四頁）▲六月二二日、天竜川大水。洪水による欠壊——『喬木村誌』五五二頁）▲閏六月一八日、高遠領等六月一〇日より二二日まで豪雨、川々満水。田畑二、〇八五石余被災・民家六軒水入・四五軒砂押、川除・道橋等損害甚大の旨幕府へ報告する——『駒ヶ根市誌』別編年表四四二頁）▲七月二五日、大雨・洪水——『赤須・上穂旧記録鈔』二二二頁）——（今井白鳥編『近世郷土年表』一〇三頁）——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁）——『泰阜村誌』上巻三六七頁）▲大満水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【文化六年・一八〇九】

▲八月、諏訪湖に水出る — (『諏訪湖氾濫三百年史』四二頁)

【文化七年・一八一〇】

▲七月、天竜川、三峰川洪水。三峰川の天竜川に落ち合う所八尺の増水なり — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八八頁) — (『赤須・上穂旧記録鈔』一三三頁)。洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』一九六頁) — (『泰阜村誌』上卷三六七頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁) ▲八月二日、当年七月一七日から一五日の大雨により高遠領分天竜川・三峰川附村々、工事中の国役普請箇所流失。国役普請を再願する — (『駒ヶ根市誌』別編年表四四五頁) ▲天竜川と三峰川が合流して増水八尺におよび被害甚大 — (『伊那市史』歴史編一一四四頁)

【文化八年・一八一二】

▲四月、雨天のため諏訪湖大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁)

【文化一一年・一八一四】

▲八月中、雨降り諏訪湖満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁)

【文化一二年・一八一五】

▲七月、雨天続く — (『泰阜村誌』上卷三六七頁)

【文化一三年・一八一六】

▲四月三〇日、晴天に大風雨 — (『泰阜村誌』上卷三六七頁) ▲六月、諏訪湖満水度々致し — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁) ▲閏八月二日より六日まで、大風・大雨。諸国大いに荒れる — (今井白鳥編『近世郷土年表』二〇四頁)

【文政元年・一八一八】

▲九月、諏訪湖満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』三一頁)

【文政二年・一八一九】

▲四月、諏訪湖大満水。五月下旬、大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四二頁)

【文政三年・一八二〇】

▲五月中旬より、諏訪湖大満水度々致し — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・三三・四二頁) ▲五月、洪水。田原西島流れる — (『東春近村誌』六六二頁)

【文政五年・一八二二】

▲夏田植仕前より、諏訪湖度々満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』四三頁) ▲七月、洪水 — (今井白鳥編『近世郷土年表』二二六頁) — (『泰阜村誌』上卷三六八頁)

【文政六年・一八二三】

▲夏田植初め、諏訪湖満水致、引水に植付け、夏中日照り、土用前満水いたし — (『諏訪湖氾濫三百年史』二一・四三頁)

【文政七年・一八二四】

▲田植頃、諏訪湖満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二二頁)

【文政八年・一八二五】

▲五月、諏訪湖大満水 — (『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四三頁) ▲五月、大満水。天竜川、田原に切り込む — (『東春近村誌』六六二頁) ▲七月、長雨 — (『泰阜村誌』上卷三六八頁)

【文政九年・一八二六】

▲四月上旬、諏訪湖満水。九月、出水―（『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四三頁）▲洪水―（『南箕輪村誌』下巻四四九頁）

【文政一〇年・一八二七】

▲四月八日、洪水。六月三日、大洪水にて松川上下橋落つ。閏六月三日夜大雨にて板橋落ち天竜へ流る。七月一日、大満水―（今井白鳥編『近世郷土年表』一三二・二三四頁）▲四月、洪水。六・七月洪水。諸橋流失、諸井欠―（『赤須・上穂旧記録』二六〇頁）▲四月八日、五月九日、洪水。六月三日、大洪水。七月、大洪水―（『泰阜村誌』上巻三三八頁）▲七月一日、大満水。各地に損害あり、松洞山押し出し愛宕洞の車屋三軒流失―（今井白鳥編『近世郷土年表』一三四頁）―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁）▲七月一日、大満水にて川端通りの村々水損。遠国も大水損―（『箕輪町誌』歴史編九六四頁）▲八月検見中に諏訪湖大満水―（『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四三頁）▲大満水―（『清内路村誌』下巻一八五頁）

【文政一一年・一八二八】

▲五月より八月まで、雨天にて諏訪湖度々満水。田方一円に無御座候、前代未聞の不作―（『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四三頁）▲五月八日から一〇日まで降雨、天竜川洪水のため南・北下平村田地四町七反歩余を失う―（『駒ヶ根市誌』別編年表四七三頁）▲五月九日、洪水。松川の川除決壊する―（今井白鳥編『近世郷土年表』一三六頁）。大洪水、座光寺から入った天竜川は飯沼へ押し抜ける。座光寺堤防全部流失―（『上郷史便覧』一四頁）▲五月、桐久保沢（大河原）氾濫。遠山八幡社流失ほか田畑流失。この年二回洪水あり―（『大鹿村誌』中巻七九四頁）▲五月、天竜川洪水、新田流失す。七月、大洪水―（唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八九頁）、この時古寺下の叶屋方の井戸辺

まで天竜川浸水す — 『川路村誌』一九二頁) ▲五月より七月まで、天竜川をはじめ大田切川等洪水度々にて田畑道橋流失多し — 『赤須・上穂旧記録鈔』二六二頁) ▲七月一日、大満水。この時川路村古寺下まで天竜川浸水、子の大満水という — (今井白鳥編『近世郷土年表』一三六頁) — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁) ▲六月七日夜、豪雨により沢底川が氾濫し、赤羽村の橋が流され、川欠八か所、砂押し五か所 — 『辰野町誌』歴史編九五五頁・辰野町誌刊行委員会・一九九〇) ▲七月、当月中大雨で中田切橋流失。また上穂村でも被害、道橋等流失 — 『駒ヶ根市誌』別編年表四七三頁)。洪水、別府山道城屋垣外にて三〇間欠流れ通行不能 — 『上郷史便覧』一四頁) 大洪水 — 『泰阜村誌』上巻三六八頁) ▲洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四九頁) ▲大満水 — 『清内路村誌』下巻一八五頁)

— (参考) 『喬木村誌』五三九頁

【文政二年・一八二九】

▲六月、洪水 — 『泰阜村誌』上巻三六八頁) ▲この年中、大田切橋流失八回 — 『赤須・上穂旧記録鈔』二五六頁) ▲洪水 — 『南箕輪村誌』下巻四四九頁)

【天保元年・一八三〇】

▲五月九日、大田切川橋流失。八月八日、洪水。大田切橋流失 — 『赤須・上穂旧記録鈔』二六六頁) ▲田植中より、諏訪湖満水 — 『諏訪湖氾濫三百年史』四三頁)

【天保三年・一八三二】

▲土用前、諏訪湖満水兩度 — 『諏訪湖氾濫三百年史』一二・四四頁) ▲夏霖雨、洪水あり — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八九頁) ▲夏以来霖雨降り続き、時々洪水あり — 『赤須・上穂旧記録鈔』二六八頁) — (村沢武夫編

『伊那谷の災害と凶作』一〇三頁)

【天保五年・一八三四】

▲八月一六日、洪水——(今井白鳥編『近世郷土年表』二五五頁)——(『泰阜村誌』上卷三六八頁) ▲八月、洪水——(『南箕輪村誌』下卷四四九頁)——(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁)

【天保六年・一八三五】

▲田植前後に、諏訪湖両度満水。又田植後四五日出水致、其上出穂に度々満水致——(『諏訪湖氾濫三百年史』一二・四四頁) ▲七月六日夜、大雨・出水。松川下橋流失、上橋も損す——(今井白鳥編『近世郷土年表』二五八頁) ▲七月六・七日、大風雨。八月五日、洪水——(『泰阜村誌』上卷三六八頁) ▲八月五日及び一三日夜には大風あり、大木所々に破損多く、稲作吹き木倒さる。山付の地特に酷だし、騒動所々に起る——(唐沢貞治郎『上伊那郡史』六八九頁) ▲八月一〇日より一三日まで大風雨——(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁)

▲大洪水で被害——(『喬木村誌』五四一頁)

【天保七年・一八三六】

▲四月九日、大洪水。田原長藏島流亡——(『東春近村誌』六六二頁)。松川上橋南詰橋鞍損す——(今井白鳥編『近世郷土年表』二六〇頁) ▲四月、七月二日、洪水。八月一三日、洪水——(『南箕輪村誌』下卷四四九頁) ▲四月、大雨洪水。七月二日、大雨で洪水。所々に山崩れ、山拔等があり被害甚大——(『赤須・上穂旧記録』二七七頁)——(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁) ▲六月二七日、曉大雨。七月二日、山崩れあり北方村新井筋へ押し出す。八月一三日、洪水、一四日殊に烈し。米一俵暴騰す——(今井白鳥編『近世郷土年表』二五一・二六二頁) ▲一〇月より大雨続き中旬より雨降り、諏訪湖度々満水——(『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁)

【天保九年・一八三七】

▲四月二十九日、大雨・洪水で、米価が再び高くなり、金十兩に米十三俵となる。閏四月二十四日から二十六日まで、大雨降り続く。大田切川橋が流失―(『赤須・上穂旧記録』二八一頁) ▲四月二十九日、大雨・洪水。一〇月、大洪水。村々被害多し―(『泰阜村誌』上卷三六八頁) ▲四月二十九日、大雨・大洪水―(今井白鳥編『近世郷土年表』二七八頁)。幕府の洪水奉行伊那一円視察―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁)

【天保一〇年・一八三九】

▲四月一五日、七日、大雨洪水。沖前庚申田より切り込み、田原へ押し流す―(『東春近村誌』六六二頁) ▲四月一九日夜大雨にて出水。松川上の橋落つ―(今井白鳥編『近世郷土年表』二八一頁)―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁) ▲植付前、諏訪湖満水―(『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁)

【天保一一年・一八四〇】

▲植付末より諏訪湖度々満水―(『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁) ▲八月、菅沼村降雨出水のため川除数カ所流失。見分を願い出る―(『駒ヶ根市誌』別編年表四九七頁)

【天保一二年・一八四一】

▲三月一七日、洪水―(『泰阜村誌』上卷三六九頁)。天竜川出水。座光寺の川除危険につき牛簗にて防ぐ―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁) ▲植付前、諏訪湖大満水。八月より十一月迄雨降り続き、秋初めより末まで六十日ほど降り申候―(『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁) ▲五月一九日、洪水、沖前へ切り込む。八月下殿島前より切り込み、田原新田四十二軒浸水―(『東春近村誌』六六二頁) ▲大洪水被害―(『喬木村誌』五四一頁)

【天保一三年・一八四二】

▲植付後、諏訪湖氾濫三百年史―『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）▲五月一四日から一七日まで大雨。天竜川工事により南・北下平村、川除二五間・藤竈五本流失、田畑二〇町歩余に被害が及ぶ―『駒ヶ根市誌』別編年表五〇一頁）▲五月一七日、洪水―（今井白鳥編『近世郷土年表』二九三頁）―『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲五月一七日、洪水。五月二日、上飯田村羽場欠崩となる―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁）

【天保一四年・一八四三】

▲七月末より八月まで二〇日程のうちしけになり、諏訪湖満水―『諏訪湖氾濫三百年史』四四頁）

【弘化三年・一八四六】

▲閏五月一日、大風雨・洪水、諸橋流失す。五十年来大荒れと云はる―（村沢吟治郎編『赤須・上穂旧記録鈔』二二八六頁・青山社・一九八一）

【弘化四年・一八四七】

▲三月七日・八日、大雨降り洪水起こる―（赤須・上穂旧記録鈔』二八七頁）。大洪水―（今井白鳥編『近世郷土年表』三二〇頁）―『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲三月、大洪水―（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇四頁）

【嘉永元年・一八四八】

▲田植後より、諏訪湖満水度々―（『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）▲六月、大洪水。殿島、田原に大被害水死者あり―（『東春近村誌』六六二頁）―（赤須・上穂旧記録鈔』二八八頁）▲六月、天竜川大洪水―（『南箕輪村誌』下巻四四九頁）

【嘉永二年・一八四九】

▲閏四月二四日、大田切川出水。身延山参詣の九州肥前長崎の一行中、女人一人水死―（『駒ヶ根市誌』別編年表五

一六頁）▲田植後より、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）

【嘉永三年・一八五〇】

▲田植前より六月迄の内、諏訪湖度々満水。両度まで土手切れ申候——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）▲五月下旬より霖雨、六月洪水引き続き雨天。七月二日、洪水——『赤須・上穂旧記録鈔』二八九頁）——（今井白鳥編『近世郷土年表』三三六頁）▲六月一七日、田原大川除、大牛七八疋、梓九三組、菱牛二〇疋、人足七、〇四八人、蛇籠四三〇本流れる。七月二日、八月九日、洪水——『東春近村誌』六六二頁）▲六月、七月二日、洪水。田畑村普請所大破——『南箕輪村誌』下巻四四九頁）▲八月八日、一〇日、大洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』三二六頁）。天竜川大洪水。河東村々山崩れ田畑流出多く、大草より満島まで山抜四二〇か所——（上郷史便覧『二二頁』）▲一〇月三日、洪水。今田渡船場用水路大破——『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲六・七・八月、洪水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【嘉永四年・一八五一】

▲八月一日、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』三三八頁）——『泰阜村誌』上巻三六九頁）

【嘉永五年・一八五二】

▲八月一六日、大風雨。諸橋流失——『赤須・上穂旧記録鈔』二九〇頁）▲八月一六日、大洪水。被害多し——（今井白鳥編『近世郷土年表』三三〇頁）——『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲八月三日、諏訪湖満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）▲大水にて加賀沢橋流失——『上郷史便覧』二二頁）

【安政元年・一八五四】

▲六月一九日、大雨・洪水——『赤須・上穂旧記録鈔』二九一頁）▲七月五日から八日の大雨により洪水被害出る。

小町屋村流失耕地面積二町四反四畝二三歩・分米三四石九斗六升三合——『駒ヶ根市誌』別編五六頁）▲七月七日、洪水——『泰阜村誌』上卷三六九頁）●八月、諏訪西筋水損——『長野県史』近世史料編第三卷五七四号文書）▲土用前に、諏訪湖大満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）

【安政三年・一八五六】

▲七月、満水。田畑被害大——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇五頁）▲八月末に至り、諏訪湖満水いたし上筋大荒に候——『諏訪湖氾濫三百年史』二二・四四頁）

【安政四年・一八五七】

▲四月二七日、洪水。松川の橋皆落つ、与右衛門の家流失——（今井白鳥編『近世郷土年表』三三五頁）——『川路村誌』一九一頁）。大満水——『清内路村誌』下卷一八五頁）▲四月二八日、大荒れ。閏五月一七日、大洪水。子年（文政二年＝一八二八）以来三十年目の大洪水といわれ、この年の洪水回数は五回に及び被害が多かったので、藩主は見分に出かけた——『東春近村誌』六六三頁）▲五月一五日より大雨降り続き、諏訪湖何年にも不覚大満水——『諏訪湖氾濫三百年史』二三・四五頁）▲五月一七・一八日、七月二六日大洪水。天竜川・大泉川満水——『南箕輪村誌』下卷四四九頁）▲五月一八日、八月一日、洪水——『泰阜村誌』上卷三六九頁）▲閏五月一六日から大雨、天竜川大増水。大平水損、田地半分ほども流失の由、一八日、天竜川大満水。菅沼村前河原残らず流失——『駒ヶ根市誌』別編年表五三四頁）▲五月から七月にかけて大洪水——『伊那市史』歴史編一一二三頁・伊那市史刊行会・一九八四）▲閏五月一七日、大洪水あり天竜川氾濫甚だしく、三日町澄心寺山崩れ損害あり——（唐沢貞治郎『上伊那郡史』六九一頁）▲閏五月一七日・一八日、大雨洪水。下平大被害、流死一人。七月二九日、大雨洪水。西山大荒れ、大田切川へ流木山のごとく押し出す、上穂石川へ大井切れ込み、古田切北下平へ浸く——『赤須・上穂旧記録鈔』二二

九二頁）▲閏五月一八日、連日の大雨、天竜大満水。子年以來の出水というー（今井白鳥編『近世郷土年表』三三六頁）▲六月一七日夜から一八日にかけて藤沢川が大増水大荒れとなる。川欠砂押しなど多く、黒沢川も氾濫石を山のごとく押し出し、砂押しは中条まで続いたー（『高遠町誌』上巻歴史二一五四二頁）▲七月三日、大雷雨、下平出水被害出る。中田切川で瀬越人足・旅人とも流死の由ー（『駒ヶ根市誌』別編年表五三四頁）▲八月一日、洪水流失家屋あり。松川橋流失ー（今井白鳥編『近世郷土年表』三三六頁）▲天竜川洪水。三日町澄心寺山崩れー（『箕輪町誌』歴史編九六四頁）。洪水により柿木島橋（永代橋）流失ー（『上郷史便覧』一三三頁）

【安政五年・一八五八】

▲五月半ば、大満水ー（『清内路村誌』下巻一八五頁）▲田植後より八月まで、諏訪湖度々満水致雨天続き候ー（『諏訪湖氾濫三百年史』二三・四五頁）▲六月二日、洪水ー（今井白鳥編『近世郷土年表』三三八頁）▲八月、大田切川洪水。上の井口損壊ー（『駒ヶ根市誌』別編年表五三七頁）

【安政六年・一八五九】

▲五月一五日、大洪水。文化四年来の洪水という。七月、大鹿方面大洪水ー（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇五頁）▲七月、洪水ー（『赤須・上穂旧記録鈔』二九四頁）ー（今井白鳥編『近世郷土年表』三三九頁）▲九月、諏訪湖満水ー（『諏訪湖氾濫三百年史』三三頁）

【万延元年・一八六〇】

▲五月五日、諏訪湖大満水。五月一日より一二日まで、大風・大雨ー（『諏訪湖氾濫三百年史』二三・四五頁）▲五月五日、大満水。五月一日、洪水。五月二八日、橋下欠け落ち徹夜欠け留め作業、田原にては一六六俵取り流れる。土蔵一ヶ所流れるー（『東春近村誌』六六三頁）▲五月六日、この日大雷雨、一日まで降り続き下平村に大

水害。一九日、赤須・上穂両町、雨止みを願って五十鈴社で祈祷執行（『駒ヶ根市誌』別編五四三頁）▲五月二〇・二一日、天竜川洪水（『南箕輪村誌』下巻四四九頁）▲五月二一日、数日来大雨降り続き洪水。五月一五日、大田切川大洪水にて下平川除林上より、下平へ切込み北下平にて田畑流失頗る多し、文化四年の洪水以上と言われる（『赤須・上穂旧記録』二九五頁）▲五月五日から一四日の降雨で、天竜川が満水となり阿島堤防は決壊し阿島新田はほとんど流失（『喬木村誌』五四一・五四三頁）▲五月二一日、暴風雨、天竜川洪水田畑流失。一五日、また洪水（今井白鳥編『近世郷土年表』三四八頁）▲五月一五日、暴風雨、天竜川満水田畑流失多し。三月より七月まで雨続き凶作（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇五頁）▲五月二一日から一五日、洪水（『泰阜村誌』上巻三六九頁）

【文久元年・一八六一】

▲七月、洪水（『赤須・上穂旧記録』二九七頁）

【文久二年・一八六二】

▲七月、洪水（『南箕輪村誌』下巻四四九頁）▲六月二二日、大旱魃中のところ雨降る。七月五日、洪水（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇五頁）▲七月一五日、洪水（今井白鳥編『近世郷土年表』三五一頁）（『泰阜村誌』上巻三六九頁）

【元治元年・一八六四】

▲四月、大雨により大田切井大破（『駒ヶ根市誌』別編五五五頁）

【慶応元年・一八六五】

▲五月一五日夜から一八日まで降雨、諸川洪水。小町屋村田畑一三町歩程流失、往還橋など九か所流失。五月水害に

よる被害、南下平村流失家屋八軒（四〇人）・北下平村流失家屋八軒（四〇人）——『駒ヶ根市誌』別編年表五五九頁）▲五月一六・一七日、天竜川・大泉川満水——『南箕輪村誌』下巻四四九頁）▲五月一七日、大満水——『東春近村誌』六六三頁）。大雨のため藤沢川が大洪水となり、大きな被害を出す——『高遠町誌』上巻歴史二——五四三頁）。一般洪水、この時西岸寺（飯島町）朱印地大島田畑悉く流失す——『唐沢貞治郎』『上伊那郡史』六九二頁）。六月一五日から一六日、洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』三五八頁）『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲五月、洪水。上伊那地方被害あり——『箕輪町誌』歴史編九六四頁）▲閏五月一七日、豪雨・大洪水——（今井白鳥編『近世郷土年表』三五八頁）。大田切川の本瀬が下平井筋に切込む、田沢川又満水。六月一五日、再洪水——『赤須・上穂旧記録鈔』二九九頁）▲閏五月、洪水にて加賀沢・野底橋流失——『上郷史便覧』二八頁）▲六月一五・六日、洪水。正徳末満水以来一五〇年目の大満水という——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』七四・一〇五頁）▲夏中長雨で度々出水。字鞍馬も氾濫、田地に土砂が入る——（『喬木村誌』五四四頁）▲大満水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【慶応二年・一八六六】

▲七月、洪水。中殿島、下殿島を貫流す。八月七日、大風雨・洪水。沖前より切り込み田原へ押し流す——『東春近村誌』六六三頁）▲八月七日、大暴風雨。一五日再び大風——『大鹿村誌』中巻七九四頁）▲八月一五日、大風雨——（今井白鳥編『近世郷土年表』三六〇頁）——『泰阜村誌』上巻三六九頁）

— 近代 —

【明治元年】一八六八

▲閏四月二八日より洪水。三峰川、天竜川特別大洪水、世に辰の荒れ、辰の不作という。五月四日、作十島欠流、殿島橋四〇間流れる。五月一九日、大洪水。九平島より下河原へ切り込む、又彦右衛門島へ切り込み。沢渡村、表木村へも切り込む。五月二〇一日、灰原下六〇俵取り欠流。八月一日、大満水。辰の満水——『東春近村誌』六六三頁）

▲閏四月中旬より雨天がち、二五・六日頃より雨しきりに降る。五月一日より雨天多く、一二日より一九日まで一日も晴れ間なく強雨。五月二三日、大洪水。山崩れ、米山大荒れ——『大鹿村誌』中巻七九四頁）▲五月五日、大風雨。大田切・中田切など諸川川止め、天竜川大增水、下平河原水害甚大——『駒ヶ根市誌』別編年表一八六八頁）。大風雨、諸橋流失、下平河原流失——『赤須・上穂旧記録鈔』三〇一頁）▲五月七日より洪水。上伊那地方被害多し、この時田原（伊那市東春近）下新田のほとんど全部を尽くし、家作を流されて転居せしもの二十一戸、流失別段二十町歩の惨害あり——（唐沢貞治郎『上伊那郡史』六九一頁）▲五月八日の大洪水。いわゆる辰満水、小川川も被害——（『喬木村誌』五四五頁）▲五月一八日、大満水。七月二日、天竜川大洪水。世に辰満水という——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁）▲七月二日、大洪水——『泰阜村誌』上巻三六九頁）▲七月、大満水——『清内路村誌』下巻一八五頁）▲八月一日、大洪水で天竜川河原ごとごとく流失——『上郷史便覧』三〇頁）

【明治二年】一八六九

▲九月七・八日、兩日とも大降りで大洪水——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一七九頁）——（牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』二頁・牛山清四郎・一九三三）▲七月一三日、大雨による郡下の被害甚大——（『泰阜村誌』下巻五七〇頁）

▲一二月八日、中沢の百姓数百、連年の水害のため上納につき上訴として高遠へ押し寄す — (唐沢貞治郎『上伊那郡史』年表)

【明治三年・一八七〇】

▲九月八日、郡内各所に大洪水あり — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁) — (『泰阜村誌』下卷五七〇頁) ▲大洪水 — (『清内路村誌』下卷一八五頁)

【明治四年・一八七一】

▲八月二〇日頃より雨降りだし、二四日・二五日に至り、諏訪湖大満水 — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一七九頁)

【明治六年・一八七三】

▲諏訪湖が増水 — (牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』二頁)

【明治七年・一八七四】

▲八月二五日、郡下全般大出水 — (『泰阜村誌』下卷五七〇頁)

【明治八年・一八七五】

▲八月一〇日、郡内洪水 — (『泰阜村誌』下卷五七〇頁) — (牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』四頁)。大洪水 — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁) ▲水害 — (『清内路村誌』下卷一八五頁)

【明治九年・一八七六】

▲九月一五日、大洪水 — (村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁) ▲九月、諏訪湖大満水、六斗川西乙代土手切れ、前川は村境で切れ — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一七九頁)

【明治一〇年・一八七七】

▲五月五日、七月二六日の二回にわたり洪水——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁）——『泰阜村誌』下巻五七〇頁）▲五月・七月洪水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【明治一一年・一八七八】

▲諏訪湖洪水——（牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』四頁）

【明治一三年・一八八〇】

▲一〇月、暴風雨あり河川満水となり、天竜川氾濫する——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁）——『泰阜村誌』下巻五七〇頁）

【明治一五年・一八八二】

▲五月・八月・九月、豪雨あり。一〇月一日、大洪水。天竜川の濁流川路平坦部に及ぶ——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁）▲九月一日、大雨降り、諏訪湖大満水、土手切れる。九月二九日から一〇月一日にかけて諏訪湖大出水——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八〇・二〇二頁）▲九月二九日から降り出した雨が豪雨となり、一〇月一日各河川大洪水——『大鹿村誌』中巻七九五頁）▲十二月、洪水——『清内路村誌』下巻一八五頁）▲松川大洪水。永代橋流失——『鼎町誌』下巻年表）

【明治一七年・一八八四】

▲七月一三日、雨降りだし、一六日まで雨、諏訪湖大満水。六斗川向かいの土手切れる。一七日の雨で道路まで冠水、近年稀なる満水。諏訪郡の損害額九万九六七円七九銭——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八〇・二〇三頁）

【明治一八年・一八八五】

▲四月三日より一七日まで雨、諏訪湖大満水。田地へ二尺余水つく。水沢山で五月三・四日大雨降り、再び満水。六月一五・一六日の雨で大満水。六斗川土手三〇間ほど切れる。六月二九日の雨で、大満水、六斗川の土手七か所切れる。中洲村・四賀村・上諏訪の損害は家流失三〇軒、破損六〇軒、天竜川関係の損害だけで水田五万五八五六円余、畑三三三四円余、諏訪郡の合計は一五万一千余円に及ぶ――(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八〇・二〇四頁)――(牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』五頁) ▲四月、出水。七月一日、暴風雨――(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇六頁)

【明治一九年・一八八六】

▲九月一日、大雨あって被害多し――(『泰阜村誌』下巻五七〇頁)

【明治二〇年・一八八七】

▲一〇月七日、暴風雨――(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇七頁)

【明治二一年・一八八八】

▲八月二一日、九月一〇日、洪水――(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇七頁)

【明治二二年・一八八九】

▲春より雨多く、諏訪湖折々大満水――(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八〇頁) ▲七月二六日、暴風雨。九月二一日、強雨にて田畑流失。一〇月、智里方面に未曾有の大豪雨。人家八戸、田畑流失す――(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇七頁) ▲八月三二日、九月一〇日、洪水――(『泰阜村誌』下巻五七一頁)

【明治二四年・一八九一】

▲九月三〇日、暴風雨あり――(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇七頁)――(『泰阜村誌』下巻五七一頁)

【明治三十五年・一八九二】

▲二・三月、大しけ。五月二日、大雨降り、諏訪湖大満水。前川土手切れ田地一面水つく。五月一〇日、雨降り、大満水、田地へ水つく。一八日より雨降りだし大洪水。夏中雨多く水多し―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八一頁）

【明治三十七年・一八九四】

▲八月一日、諏訪湖大洪水―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八一頁）

【明治三十八年・一八九五】

▲六月二八日、洪水あり―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【明治三十九年・一八九六】

▲七月二一・二二日、洪水で川々堤防数カ所破壊、諏訪湖に接する耕地は冠水。損耗代償一九万七八二八円八月二日の洪水で湖畔の低地は過半浸水。九月八日の洪水で諏訪湖に接する耕地は冠水―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八一・二〇六頁）―（牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』一四頁）▲七月二一日、豪雨により洪水、被害甚大。木曾アラギ山崩れのため一部落全滅―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）▲松川大洪水―（『鼎町誌』下卷年表）

【明治三〇年・一八九七】

▲七月、九月、洪水―（『清内路村誌』下卷一八五頁）▲八月、松川大洪水―（『鼎町誌』下卷年表）▲九月上旬より強雨。九月九日、大洪水、二九日まで大洪水。上川通り六斗川堤防が四賀村地籍で破壊、下流は湖面のようになる。近年稀なる洪水―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八二頁）▲九月二九日、大洪水被害甚大なり―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【明治三二年・一八九八】

▲六月上旬、大洪水、下旬にまた大洪水。六斗川堤防が切れる。九月上旬、強雨、古来これなき大猛水となり八ヶ岳山峡崩壊し、木石土砂一時に押出し、諸川膨張。諏訪郡の堤の破壊数百箇所、家屋の流失数十戸、人馬流失十余名（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八二頁）▲九月九日、暴雨風雨（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【明治三三年・一八九九】

▲七月は長雨であつたので一七日に晴天祈願。二一日大雨、二二日大洪水。小波湯流失一〇人死亡（『大鹿村誌』中卷七九五頁）▲九月上旬より大雨。九月八日、大洪水（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八三頁）

【明治三三年・一九〇〇】

▲八月一〇日、暴風。八月二〇夜、降雨、洪水となる。九月二八日、大暴風（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八三頁）▲八月、松川大洪水（『鼎町誌』下卷年表）

【明治三四年・一九〇一】

▲五月一日から降り出した雨は一五日に大雨となる。一八日の豪雨で鹿塩川が大洪水。堤防欠壊、田畑流失（『大鹿村誌』中卷七九八頁）▲六月下旬より霖雨（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八三頁）

【明治三五年・一九〇二】

▲五月二八・二九日、降雨、洪水。七月下旬より降雨、洪水となり諏訪湖に接する村落の過半は浸水（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八三頁）▲十二月、天竜川洪水。田畑三〇町歩浸水（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【明治三六年・一九〇三】

▲七月八・九日、風雨のため洪水。上川通り六斗川堤防破壊、諏訪湖に接する村落の過半に浸水。一〇月二日、風雨

のため洪水―(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九四頁)

【明治三七年・一九〇四】

▲五月二日、洪水。七月上旬降雨のため二回の洪水。九月一七日、洪水―(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八四頁) ▲七月二日、洪水。飯田橋永代橋流失、智里本谷山崩れ死者四人―(泰阜村誌)下卷五七一頁) ▲七月、松川大洪水―(『鼎町誌』下卷年表)

【明治三八年・一九〇五】

▲六月一二日より降雨、一五日、洪水。一八日より降雨、二〇日に至り洪水。六斗川の堤防約二〇間切れる―(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八四頁)―(牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』一五頁) ▲七月一四日、暴風雨。八月、洪水―(『泰阜村誌』下卷五七一頁)

【明治三九年・一九〇六】

▲七月一五日、強雨降りだし、一六日、洪水。六斗川堤防約五五間切れる。二七日再び強雨、二八日に堤防切れる―(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八五頁)―(牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』二〇頁) ▲七月一六日、八月二四日、天竜川・松川大出水、被害あり。根羽村水害あり―(村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇七頁) ▲七月、豪雨。根羽村水害甚だし―(『泰阜村誌』下卷五七一頁) ▲松川大洪水。流失八戸、破損二四戸、浸水九〇棟―(『鼎町誌』下卷年表)

【明治四〇年・一九〇七】

▲七月二日、暴雨で洪水。八月二四日より大風雨、二五日に洪水―(堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八五頁) ▲八月、小渋川・天竜川氾濫―(『泰阜村誌』下卷五七一頁)

【明治四一年・一九〇八】

▲六月二五日より雨降り続き、二八日に諏訪湖満水 — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八五頁)

【明治四二年・一九〇九】

▲六月二〇日頃より雨。二五日、大雨のため洪水 — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八五頁)

【明治四三年・一九一〇】

▲六月より強雨降り続き、一〇日、大洪水、大被害。水田浸水約一〇〇町歩、堤防欠壊一六〇余間、橋梁の流失、浸水地千余町歩、諏訪郡の損害二四万円 — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八六・四〇一頁) ▲八月、南信一帯集中豪雨。被害甚大 — (『泰阜村誌』下卷五七一頁)

【明治四四年・一九一一】

▲四月一〇日より降雨、一日洪水。六月二七日より霖雨、二九日洪水、多大の被害。浸水五〇〇余町歩。七月末より降雨、八月三日、強雨、四日に至り近年稀なる大洪水。六斗川堤防約九〇間切れる — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八七・四二〇・四二九頁) — (牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』二二頁) ▲八月四日、伊那谷で二二ミリの豪雨。死者九人 — (『泰阜村誌』下卷五七一頁)

【大正元年・一九一二】

▲九月二二日、降雨。二三日、近年稀なる大暴風 — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一八八頁) — (『清内路村誌』下卷一八五頁)

【大正三年・一九一四】

▲八月二三日、雨、洪水。八月二九日、降雨、洪水。上川筋堤防七〇間ほど切れる — (堀江三五郎『諏訪湖氾濫三

百年史』一九〇頁）▲八月二八・二九日、一〇月三日、十一月四日、台風発生―（『清内路村誌』下卷一八五頁）

▲八月二九日、大洪水―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）▲八月、松川大洪水―（『鼎町誌』下卷年表）

【大正六年・一九一七】

▲六月、大暴風雨。一〇月、豪雨。坪当り雨量四石六斗一升一合―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）▲九月下旬、強降雨にて洪水。一〇月より一月上旬まで霖雨と暴風―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九二頁）

【大正七年・一九一八】

▲九月二三日、強雨降り続き、二三日、大洪水―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九二頁）

【大正九年・一九二〇】

▲三月一六日、大暴風、被害甚大―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【大正一〇年・一九二一】

▲六月二九日、暴風、被害甚大。南学校裏土堤崩落し池を埋め、便所、廊下倒壊―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）

【大正一一年・一九二二】

▲八月、松川大洪水。人家流失五戸、破損七戸、田畑流失四町五反―（『鼎町誌』下卷年表）

【大正一二年・一九二三】

▲六月八日より豪雨、九日、大出水。六月二日、豪雨。二三日、大洪水―（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九四頁）▲六月九日、豪雨があり天竜川増水。飯田町浸水、飯田測候所開設以来の雨量という―（『泰阜村誌』下卷五七一頁）▲七月一八日、鹿塩川洪水。田六町五反六畝歩余、畑六反五畝歩余が流失―（『大鹿村誌』中卷七九八頁）

【昭和元年・一九二六】

▲九月四日、豪雨。道路被害六か所、堤防などに被害——『大鹿村誌』中巻七九八頁）▲九月一七日、大暴風雨——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【昭和三年・一九二八】

▲七月四日の出水で、北入・塩河地区の田畑三反歩余が流失。一六日、出水、塩見橋大破、付近の田畑二反歩および家屋二棟が流失——『大鹿村誌』中巻七九九頁）▲六月二十四日、強雨で大洪水。六斗川の堤防切れる——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九四頁）▲八月二三日、暴風雨、被害甚大（伊那谷全般）——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和四年・一九二九】

▲八月、豪雨、村内被害甚大。栃城分校災害を受く——『泰阜村誌』下巻五七一頁）▲九月上旬より雨、一〇日、暴風のため大洪水——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九五頁）▲九月一〇日、台風——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【昭和五年・一九三〇】

▲三月一八日、黒見山地一万坪崩落、三信鉄道工事中絶。七月三十一日、暴風雨、被害甚大——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇九頁）——『泰阜村誌』下巻五七一頁）▲七月末日、降雨、八月一日豪雨のため大洪水——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九五頁）

【昭和六年・一九三一】

▲十一月七日、連日の豪雨、天竜川大增水——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和七年・一九三二】

▲六月末より雨、七月二日洪水。七月八日に至り大洪水——（堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』一九六頁）▲七月二日、豪雨のため橋梁人家流出、郡下田畑浸水五六〇町歩——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和九年・一九三四】

▲九月二日、暴風雨（室戸台風）郡下の被害大。倒壊家屋八戸——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和一〇年・一九三五】

▲七月一五日、大雨洪水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【昭和一一年・一九三六】

▲梅雨期の豪雨により村内三戸の住家全壊する——『泰阜村誌』下巻五七一頁）▲九月二七日、豪雨。久米路橋流失——（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一〇九頁）

【昭和一二年・一九三七】

▲七月一五日から一七日、大洪水。飯田・下伊那被害甚大——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和一三年・一九三八】

▲七月一日、連続豪雨と河川氾濫。村の被害家屋倒壊三戸、流失一戸、土木関係一万五〇〇〇円、山林一万三六三〇円を出す——『泰阜村誌』下巻五七一頁）▲七月四・五日、大水害。被害総額七二万九六九三元——『大鹿村誌』中巻七九九頁）▲大雨・洪水——『清内路村誌』下巻一八五頁）

【昭和一五年・一九四〇】

▲六月一九日、三〇年来の大増水。天竜川の増水二〇尺（六メートル）——『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和一八年・一九四三】

▲九月四日、豪雨。家屋全流失八戸、半壊八戸、水田一町六反歩、畑一町五反歩流失 — 『大鹿村誌』中巻八〇〇頁

【昭和二〇年・一九四五】

▲七月一七日から一九日、下伊那郡南部を中心に集中豪雨。七月一九日には漆平野「ヤニマツ」地籍の山崩れで家屋倒壊二人の児童が死亡。万古川の増水により漆平野の民家三戸流失などの被害。一〇月三・四・五日、豪雨となり山地の崩落あつて門島に人身被害あり。死者七人、負傷三人、連続雨量四一七・八ミリ — 『泰阜村誌』下巻五五七・五七二頁）▲九月一八日、台風。一〇月一五日、大雨 — 『清内路村誌』下巻一八五頁

【昭和二三年・一九四八】

▲六月一九・二〇日、郡下大水害起こる。国鉄門島駅附近に災害起こり消防団警備、門島附近の二・三世帯避難する — 『泰阜村誌』下巻五七二頁）▲一〇月三日、大豪雨による氾濫。死者二名、地滑り、崩壊、道路堤防の決壊、田畑の流失など大被害 — 『大鹿村誌』中巻八〇〇頁

【昭和二五年・一九五〇】

▲六月八日から一四日、低気圧による豪雨で泰阜村でも日雨量一〇八ミリを記録、道路に被害を生じた — 『泰阜村誌』下巻五七二頁）▲六月、降雨後大出水あり、被害起こる — （村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一一〇頁）

【昭和二七年・一九五二】

▲六月二三日、台風。橋梁、道路等被害を受く — （村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』一一〇頁）▲七月二〇日から二二日に至る豪雨、大被害。被害金額一〇九五六万三〇〇〇円 — 『大鹿村誌』中巻八〇二頁

【昭和二八年・一九五三】

▲七月一七日より二〇日、豪雨災害。死者七名、行方不明九名を出す。雨天の日一八〇日に及ぶ（村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九〇・一一〇頁）▲七月一九日、豪雨により山津波起こり、漆平野において家屋倒壊、不明三人、村内各所に流失または浸水家屋六戸を出す（『泰阜村誌』下巻五七一頁）▲八月、大雨（『清内路村誌』下巻一八五頁）

【昭和三年・一九五七】

▲六月二七・二八日、台風と低気圧により大雨となり山間地に被害起こる（『泰阜村誌』下巻五七一頁）

【昭和三年・一九五八】

▲六月、台風・集中豪雨（『清内路村誌』下巻一八六・一八八頁）▲七月二〇日から二七日、前線と台風により大雨となり、飯田線普通となる（『泰阜村誌』下巻五七三頁）

【昭和四年・一九五九】

▲九月二六・二七日、伊勢湾台風被害甚大。松川入り旧一町三か村の共有山も被害多し（『鼎町誌』下巻年表）。伊勢湾台風にて被害多し（『上郷史便覧』六〇頁）。九月二六日、台風一五号（伊勢湾台風）襲来。村内、全・半壊戸数三〇〇余戸におよび最大の被害を受く（『泰阜村誌』下巻五七三・五五九頁）。被害（『清内路村誌』下巻一八九頁）

【昭和三六年・一九六一】

▲六月二三日より降り始めた梅雨全線は、二七日に至り豪雨となり大雨注意報が発令され、二八日飯田市大門町で行方不明六人、押洞、北方大洞等の山津波、川路平坦部の流失家屋、弁天の堤防五〇〇メートル欠壊、山吹と出砂原の被害、大鹿村大河原の大西山の崩落による死者三九名、その他飯田下伊那地方における被害総額一五〇億円という（『泰阜村誌』下巻一八九頁）

〔村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』九四・一一〇頁〕▲六月二六日から二八日、梅雨全線豪雨にて大被害、正徳の未満水もかくやと思われるほど。行方不明二人、流失家屋二戸、全壊五戸、半壊四四戸、床上浸水五六戸、床下浸水一、五〇〇戸、西鼎の土砂被害甚大―〔『鼎町誌』下巻年表〕。梅雨全線豪雨にて大被害。被害額一〇億円余―〔『上郷史便覧』六〇頁〕▲六月二四日頃より梅雨全線による降雨、二六日に台風六号が発生。二七日を中心に伊那谷全体が記録的な集中豪雨、家屋の全壊、流失を含め床上、床下浸水など三五世帯、被災者一五九人―〔『泰阜村誌』下巻五六一頁〕―〔『清内路村誌』下巻一八六・一九〇頁〕

（参考）―〔『大鹿村誌』中巻八〇四頁〕、奥田 穰『昭和三六年伊那谷大水害の気象』（建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所・一九九一）

【昭和四二年・一九六七】

▲七月八日から一〇日、水害起こる―〔『泰阜村誌』下巻五七四頁〕

【昭和四三年・一九六八】

▲八月二五日より二九日にわたり雨、これに加え二九日午後より台風一〇号の影響があり、二六日秋雨前線の集中豪雨。被害総額二億三三一万五千元―〔『泰阜村誌』下巻五六六頁〕▲前線の停滞により連続降雨となり、更に台風一〇号の上陸が加わり、午後六時から九時までに一二三ミリが記録された。河川は増水し、山崩れが起こり、人家が埋没又は流失し、部落内で死者五名、行方不明一人、負傷者七名を出し、田畑・橋梁・道路が流失し甚大な被害を出すにいった―〔『南信濃天竜村大河内の民俗』五頁・天竜村教育委員会・一九七三）

【昭和四五年・一九七〇】

▲六月一五・一六日の梅雨前線豪雨。全壊、半壊、床上下の浸水による被災者一九世帯、五三人―〔『泰阜村誌』下

卷五六七頁）▲六月、豪雨による災害——『大鹿村誌』中巻八〇三頁）

【昭和四六年・一九七二】

▲九月五日、秋雨前線による降雨被害起くる——『泰阜村誌』下巻五七四頁）▲九月六・七日、秋雨前線集中豪雨——『清内路村誌』下巻一八六頁）

【昭和四九年・一九七四】

▲七月七・八日、梅雨前線豪雨。半壊二戸、一部破損一戸、床上下浸水八戸——『泰阜村誌』下巻五六八頁）

【昭和五〇年・一九七五】

▲七月四日、梅雨前線豪雨。道路、農地に被害甚大——『泰阜村誌』下巻五七四頁）

収録した諸本の外に、次のようなものを参考文献としてあげることができます。

参考文献

（この地方に関係するもの）

牛山雪鞋『諏訪湖氾濫史』（牛山清四郎・一九三二）

堀江三五郎『諏訪湖氾濫三百年史』（諏訪湖氾濫史刊行会・一九三三）

代田豊太郎・牧内武編『天龍川水防史—川路史料—』（天龍川史料刊行会・一九三六）

楠仙之助編『諏訪湖治水利水資料』（天竜川上流改良事務所・一九三八）

- 『天竜川洪水調査書』（川路村役場・竜江村役場編・一九四〇）
- 『天竜川の洪水について——災害原因調査の一史料として——』（長野県総合開発局・一九五〇）
- 『西天竜沿革史』（上伊那郡西天竜土地改良区・一九六二）
- 『三峰川総合開発史』（長野県企業局電気部編・一九六二）
- 村沢武夫編『伊那谷の災害と凶作』（伊那郷土史刊行会・一九六三）
- 『三六災害』伊那谷災害復旧工事報告——急流河川工事について——（長野県土木部・一九六七）
- 『災害の記録——昭和四三年八月発生前線豪雨および台風一〇号災害——』（長野県下伊那地方事務所編・一九六八）
- 『災害をこえて——昭和三四年の台風を中心として——』（長野県総務部文書広報課・一九七〇）
- 『昭和三六年梅雨前線豪雨概報——昭和三六年六月三日から七月一日までの長野県下の豪雨について——』（長野地方気象台編・一九七一）
- 三沢弥太郎『諏訪湖の氾濫と天竜川通船』（第三次『信濃』第三卷一号・一九七二）
- 『昭和三六年六月梅雨前線豪雨による県下の被害と復旧状況』（長野県土木部企画調査課防災企画室編・一九七二）
- 『梅雨前線豪雨災害を顧みて』（長野県社会部・一九七二）
- 『集中豪雨災害報告』（上伊那郡辰野町川島小学校・一九七三）
- 『東天竜』（朝日土地改良区編 上伊那郡辰野町・一九七三）
- 『天竜川上流崩壊地調査報告書』その一、その二（建設省天竜川上流工事事務所編・一九七四）
- 建設省天竜川工事事務所編『天竜川史料』（建設省天竜川事務所・一九七七）
- 飯田市役所建設部都市計画課編『復興のあゆみ』（飯田市・一九七九）

昭和三十六年災害二〇周年記念行事実行委員会出版部会編『語り継ぐ災害の記録』（一九八一年六月）

松沢 武『伊久間地先に於ける天竜川の変遷』（建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所・一九八六）

唐沢和雄『川筋の変遷―天竜と三峯川の場合―』（建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所・一九八八）

（全国的なもの）

小鹿島果編『日本災異志』（一八九三、五月書房・一九八二復刻）

荒川・大隅・田村編『日本魃霖雨史料』（一九六四）

山本武夫『気候の語る日本の歴史』（そして・一九七六）

菊池万雄編『日本の風土と災害』（古今書院・一九八七）

付 記

本書は平成二年度から四年度まで、「災害多発地帯の『災害文化』に関する研究」（代表者・首藤伸夫）の題で交付を受けた科学研究費重点領域の分担成果の一部です。関係者の皆様に御礼を申し上げます。

笹本 正治 （ささもと しょうじ）

昭和26年12月 山梨に生まれる
信州大学人文学部卒・名古屋大学大学院博士課程前期終了
信州大学人文学部助教授（日本史学）
平成 3 年「野口賞」郷土研究部門受賞

著書 『武田氏三代と信濃－信仰と統治の狭間で－』1988, 郷土出版社
『戦国大名と職人』1988, 吉川弘文館
『戦国大名武田氏の信濃支配』1990, 名著出版
『中世の音・近世の音』1990, 名著出版
『辻の世界』1991, 名著出版

天竜川の災害年表

平成 5 年 3 月19日 発行		
企 画	建設省中部地方建設局	長野県駒ヶ根市上穂南 7 - 10
発 行	天竜川上流工事事務所	〒399 - 41 ☎0265 - 82 - 3251
著 者	笹 本 正 治	長野県松本市大村387 - 4 〒390 - 03 ☎0263 - 46 - 3744
編 集	(有)北原技術事務所	長野県南安曇郡豊科町豊科4574 〒399 - 82 ☎0263 - 72 - 6061
印 刷	双 葉 印 刷 (有)	長野県松本市城東 2 - 2 - 6 〒390 ☎0263 - 32 - 2263

「語りつぐ天竜川」の発刊にあたって

天竜川は独特の形態をもつ河川です。上流部は諏訪湖が洪水を調整して比較的穏やかな表情をしています。後背に多雨域をもつ三峰川・小渋川・太田切川などの支川を合流するたびに、洪水とともに大量の土砂を受け入れて一気に急流土砂河川の様相を呈し、途中多くの狭窄部の間に氾濫原を形成してきています。

一方、この氾濫原は伊那谷の穀倉地帯でもあり、地先の人々は出水ごとに濫流する天竜川との間に涙ぐましい闘いを繰り返してきました。反面、天竜川は母なる川として地域の人々の生活を支え潤してきました。田畑を灌漑し、漁獲をもたらし、山深い信州と他国を結ぶ物資の交流の場でもありました。情操のうえでも深い関わりがあり、独特の風土や文化を育んできました。伊那谷の風土は天竜川と無関係ではあり得ません。今後とも、天竜川を危険なものとして遠ざけたり、水があるからといって過度に取水したり、汚したりすることは避けねばなりません。

この天竜川を鎮め、水を高度に利用するための地元の長い営みの後を受けて、昭和12年から砂防を、昭和22年から河川を国が直轄事業として取り組むようになり、その間地域の皆様からの多大なご協力のもとに、天竜川の安全性は格段に向上しました。しかし安心は出来ません。絶えず流域の変貌をみつめ、河川施設の整備と維持管理を図っていかねばなりません。また、水害防止と利水に一応の成果をみた現在、地域にとって望ましい天竜川の姿を考え、その方向に向けて管理してゆくことがこれからの課題であると考えます。

「語りつぐ天竜川」は、天竜川の治水に関する地域の知見や経験を収集し、広く地域共有の知識とすることにより、地域の方に天竜川に対する認識を深めていただき、よりよい天竜川を築いていくことに役立ちたいと考え発行するものです。

なお、ご執筆いただく方々には、自由な立場からお考えを披瀝していただいていますので、建設省の見解とは異なる場合がありますことを付言します。

建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所
所 長 望 月 達 也

「語りつぐ天竜川」目録

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. 伊那谷の気象 | 米 山 啓 一 著 |
| 2. 天竜川上流域の立地と災害 | 北 澤 秋 司 著 |
| 3. 天竜川に於ける河川計画の歩み | 鈴 木 徳 行 著 |
| 4. 総合治水の思想 | 上 條 宏 之 著 |
| 5. 総合治水と森林と | 中 野 秀 章 著 |
| 6. 伊久間地先に於ける天竜川の変遷 | 松 澤 武 著 |
| 7. 天竜峡で見た天竜川水位の変遷 | 今 村 真 直 著 |
| 8. 村境は不思議だ | 平 沢 清 人 著 |
| 9. 諏訪湖の富栄養化と生物群集の変遷 | 倉 沢 秀 夫 著 |
| 10. 諏訪湖の御神渡し | 米 山 啓 一 著 |
| 11. 理兵衛堤防 | 下 平 元 護 著 |
| 12. 近世 天竜川の治水 — 伊那郡松島村 — | 市 川 脩 三 著 |
| 13. 川筋の変遷 — 天竜川と三峰川の場合 — | 唐 沢 和 雄 著 |
| 14. 伊那谷山岳部の降雨特性 | 宮 崎 敏 孝 著 |
| 15. 天竜川の橋 | 日下部新一著 |
| 16. 伊東伝兵衛と伝兵衛五井 | 北 原 優 美 編 |
| 17. 天竜川の魚や虫たち | 橋 爪 寿 門 著 |
| 18. 天竜川のホタル | 勝 野 重 美 著 |
| 19. 天竜川流域の村々 | 松 澤 武 著 |
| 20. 小渋川水系に生きる — 人と水と土と木と — | 中 村 寿 人 著 |
| 21. ものがたり 理兵衛堤防 | 森 岡 忠 一 著 |
| 22. 量地指南に見る 江戸時代中期の測量術 | 吉 澤 孝 和 著 |
| 23. 土木技術と生物工学 — 生きものを扱う技術 — | 亀 山 章 著 |
| 24. 戦国時代の天竜川 | 笹 本 正 治 著 |
| 25. 天竜川の水運 | 日下部新一著 |
| 26. 惣兵衛川除 | 市 村 咸 人 著 |
| 27. 紙芝居 開墾堤防 — 下伊那郡豊丘村伴野 — | 竹 村 浪 の 人 著 |
| 28. 昭和36年伊那谷大水害の気象 | 奥 田 穰 著 |
| 29. 天竜川の淵伝説 — 『熊谷家伝記』を中心に — | 笹 本 正 治 著 |

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 30. 天竜川の源流地帯 | 赤 羽 篤 著 |
| 31. 東 天 竜 | 三浦孝美 共著
仁科英明 |
| 32. 天竜河原の開発と石川除 | 塩 沢 仁 治 著 |
| 33. 伊那谷は生きている | 松 島 信 幸 著
(以上既刊) |
| 34. 天竜川の災害伝説 | 笹 本 正 治 著 |
| 35. 天竜川の災害年表 | 笹 本 正 治 編 |
| 36. 天竜川水運と樽木 | 村 瀬 典 章 著 |
| 37. 水辺の環境を守る | 桜 井 善 雄 著 |
| 38. 諏訪湖 ― その氾濫の社会史 ― | 北 原 優 美 編
(発刊中) |